

第1章

現状と課題

連携中枢都市圏」を形成し、広域的に学び、働き、暮らし続けることができる圏域づくりを進めています。

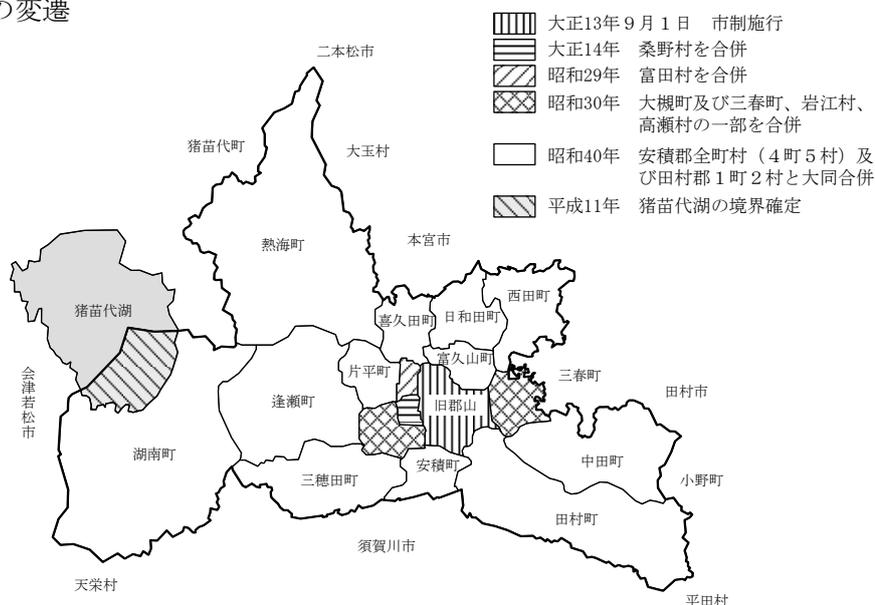
さらに、本市は令和元(2019)年7月に SDGs 未来都市・モデル事業に選定され、「誰一人取り残されない」SDGs の目標達成に向け、セーフコミュニティの推進をはじめ、5G時代、Society5.0にも即応できるデジタルトランスフォーメーション(DX)化の加速や、「気候変動・地球温暖化」対策としてのゼロカーボン・グリーントランスフォーメーション(GX)の推進、地域全体で子どもを育む「ベビーファースト」など、ウィズコロナ時代にも対応した地域づくりの実現を進めています。

(2) 市域の変遷・地勢

① 市域の変遷

大正13(1924)年9月1日、全国99番目の市として「郡山市」が誕生しました。現在では、東西46.78km、南北39.95km、総面積は猪苗代湖の一部も含まれ757.20km²となりました。

●市域の変遷



●地域の基礎情報

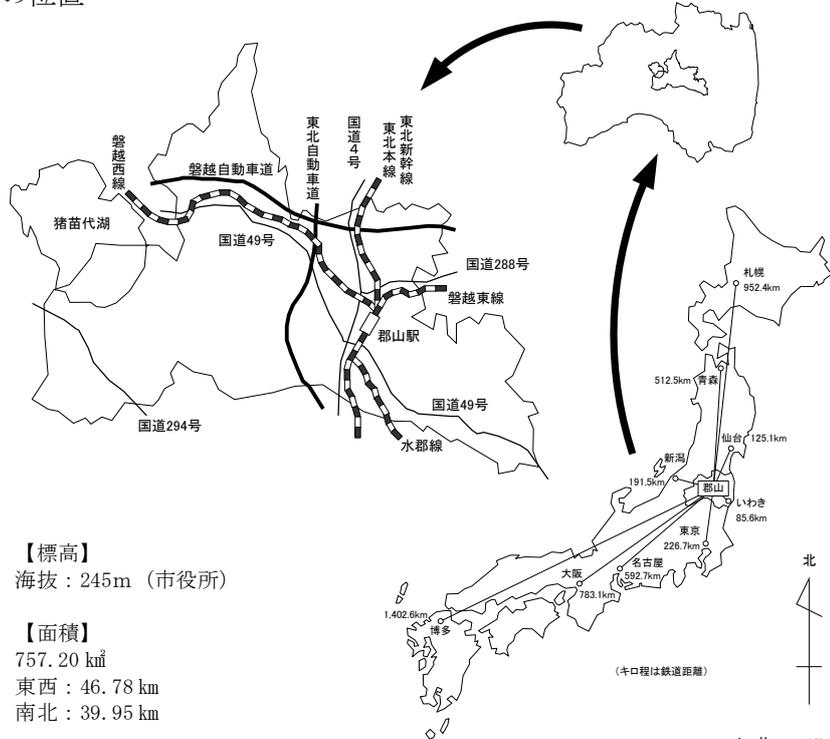
地区	面積 (km ²)	面積割合	2021(R3)人口(人)	人口割合	人口密度 (人/km ²)
総数	757.20	—	326,149	—	430.73
郡山※	56.62	7.5%	181,971	55.8%	3213.90
安積	17.43	2.3%	35,064	10.8%	2011.70
三穂田	44.47	5.9%	3,990	1.2%	89.72
逢瀬	72.02	9.5%	3,721	1.1%	51.67
片平	18.76	2.5%	6,288	1.9%	335.18
喜久田	15.57	2.1%	12,262	3.8%	787.54
日和田	22.53	3.0%	10,446	3.2%	463.65
富久山	16.56	2.2%	37,988	11.6%	2293.96
湖南	167.76	22.2%	2,737	0.8%	16.31
熱海	151.20	20.0%	5,293	1.6%	35.01
田村	91.75	12.1%	18,090	5.5%	197.17
西田	27.29	3.6%	4,075	1.2%	149.32
中田	55.24	7.3%	4,224	1.3%	76.47

令和3(2021)年10月1日現在
 ※富田、大槻を含む
 出典：郡山市統計書掲載数値から作成

② 市域の地勢

郡山市は、福島県の中央部に位置し、安積平野又は郡山盆地と呼ばれる平たん地を中心に市街地が広がった西高東低の地形で、西は猪苗代湖の一部を有し、東は阿武隈山地、北は安達太良山頂に達しています。

●郡山市の位置



出典：郡山市統計書

●郡山市の地形



(3) 土地利用

① 都市計画区域

本市は、行政区域の 35.7%にあたる 27,023.5ha を都市計画区域に指定しています。都市計画区域は、優先的かつ計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」の二つの区域に区分されます。

② 区域区分（市街化区域・市街化調整区域）

本市では、昭和 45（1970）年 10 月 15 日に市街化区域及び市街化調整区域を定めており、令和 4（2022）年 3 月現在、区域の規模は、市街化区域が 6,886.3ha、市街化調整区域が 20,137.2ha となっています。

●郡山市の都市計画区域



	面積 (ha)	面積の割合 (%)	人口 (人)	人口の割合 (%)	
(1)市域【(2)+(3)】	75,720.0	100.0	≒329,400	100.0	
(2)都市計画区域【イ+ロ】	27,023.5	35.7	313,370	95.1	
	イ)市街化区域	6,886.3	9.1	267,870	81.3
	ロ)市街化調整区域	20,137.2	26.6	45,500	13.8
(3)都市計画区域外	48,696.5	64.3	16,030	4.9	

※人口は2021年4月1日の数値を丸め

出典：郡山市（都市政策課）

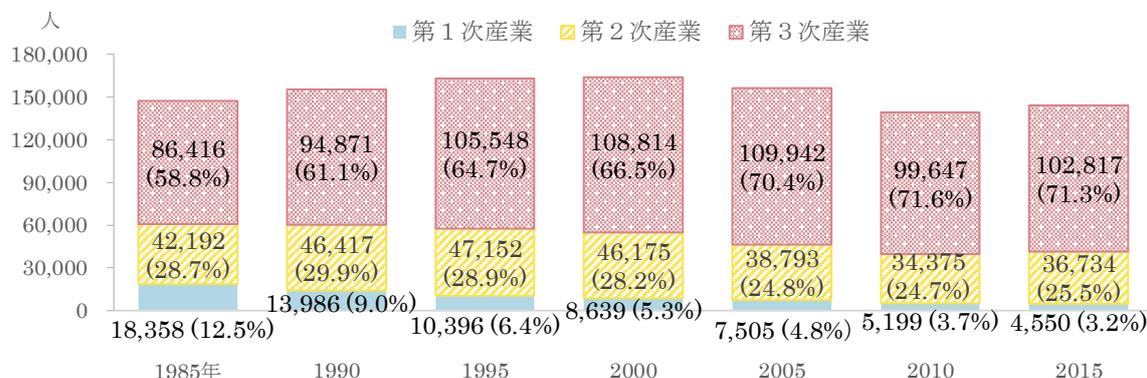
(4) 産業活動

① 就業人口

産業別就業者数の割合は、平成 27 (2015) 年現在、第一次産業が 3.2%、第二次産業が 25.5%、第三次産業が 71.3%となっており、第三次産業の割合が圧倒的に高くなっています。

● 産業別就業者数

各年 10 月 1 日現在



資料：国勢調査

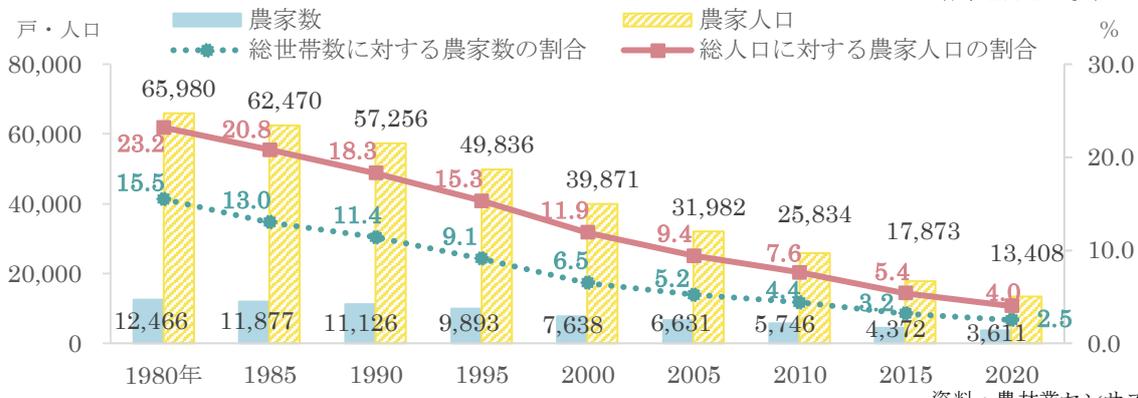
※「分類不能」の産業を含まない

② 農林業

農家数及び経営耕地面積ともに減少傾向にあり、令和 2 (2020) 年時点では農家数が 3,611 戸、経営耕地面積は 8,281ha となっています。

● 農家数・農家人口・農家率

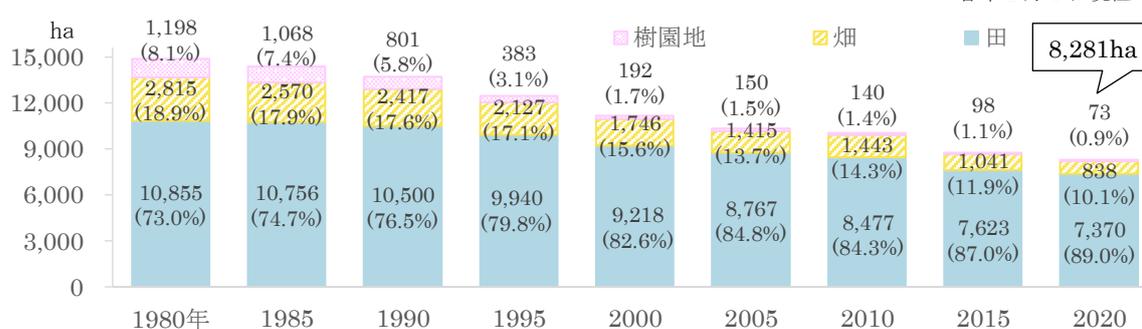
各年 2 月 1 日現在



資料：農林業センサス

● 経営耕地面積

各年 2 月 1 日現在

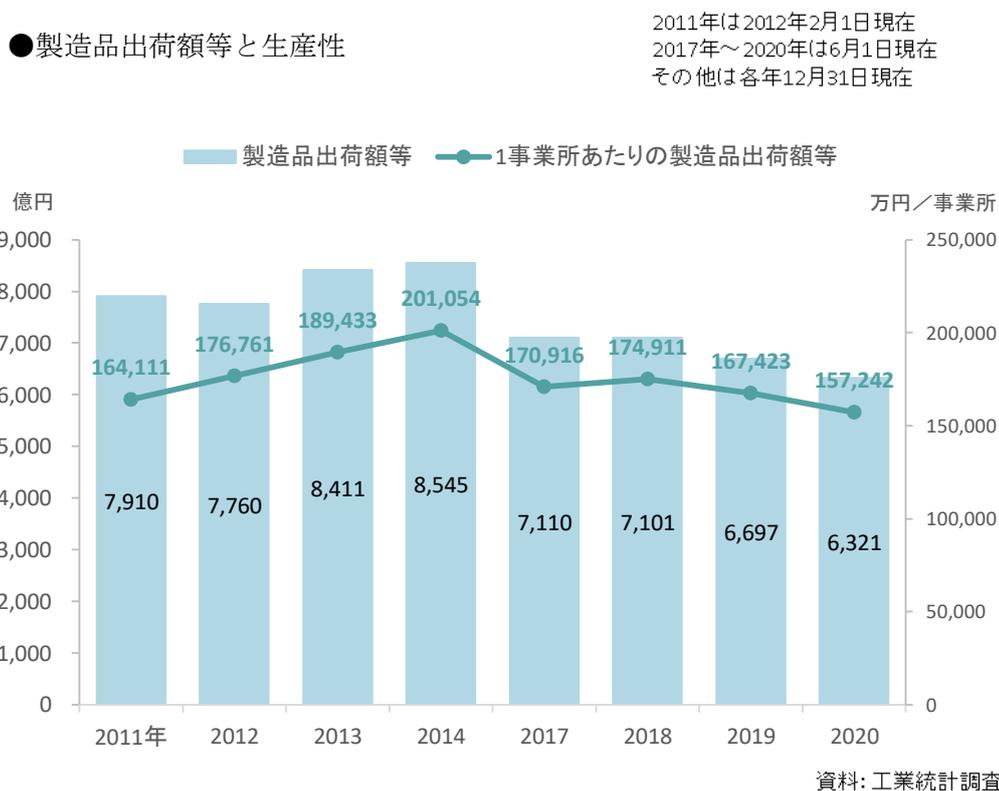
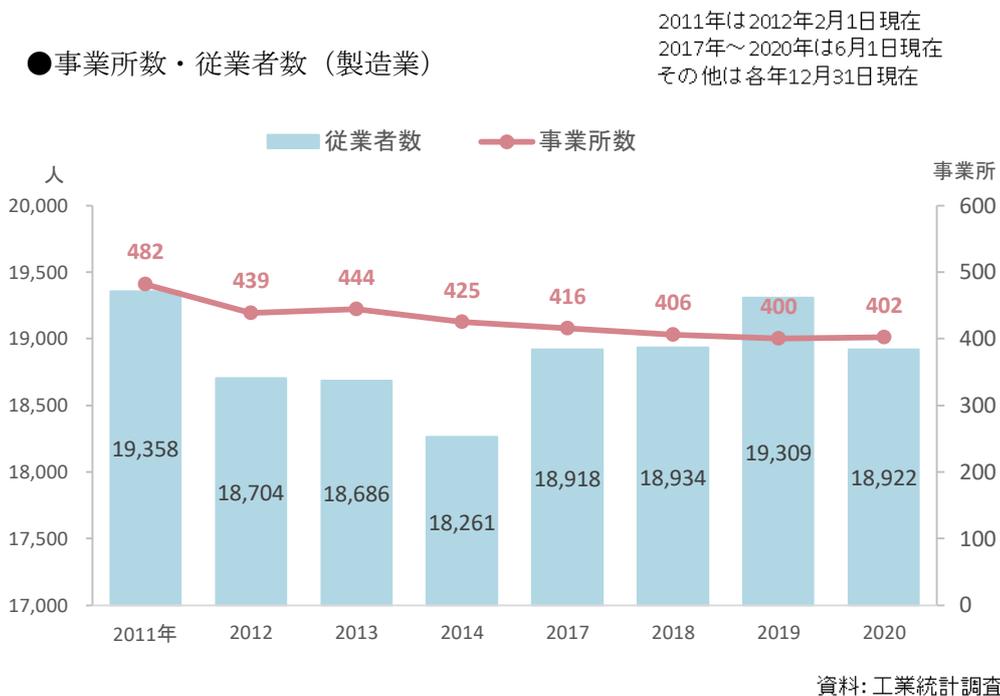


※2000,2005,2010,2015 年は販売農家の集計、2020 年は農業経営体 (個人) の集計

資料：農林業センサス

③ 工業

事業所数及び従業者数は平成 23（2011）年の東日本大震災の影響により一時減少しましたが、2017 年以降ほぼ横ばいに推移しており、令和 2（2020）年時点では従業者数が 18,922 人、事業所数が 402 事業所となっています。一方で、製造品出荷額等は東日本大震災以降も上昇傾向にありましたが、2017 年以降減少に転じており、令和 2（2020）年時点で、6,321 億円となっています。



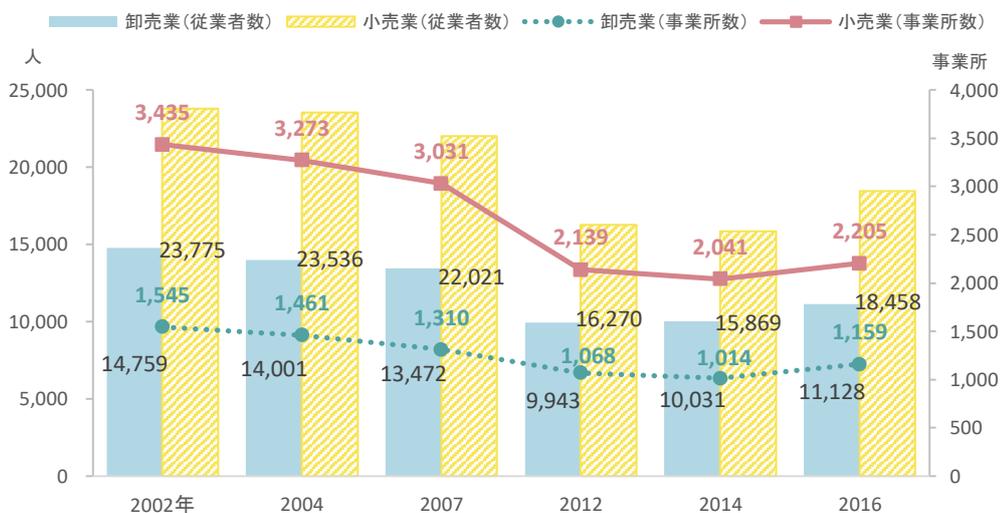
④ 商業

卸売業は事業所数、従業者数、年間販売額のいずれも減少傾向にあり、特に平成 23（2011）年の東日本大震災の影響により大きく減少しましたが、回復傾向にあり、平成 28（2016）年時点で、事業所数が 1,159 事業所、従業者数が 11,128 人、年間販売額が 9,693 億円となっています。

また、小売業の事業所数及び従業者数も同様の傾向にありますが、年間販売額は東日本大震災以降減少し、平成 28（2016）年時点で、事業所数が 2,205 事業所、従業者数が 18,458 人、年間販売額が 4,337 億円となっています。

●事業所数・従業者数（卸売・小売）

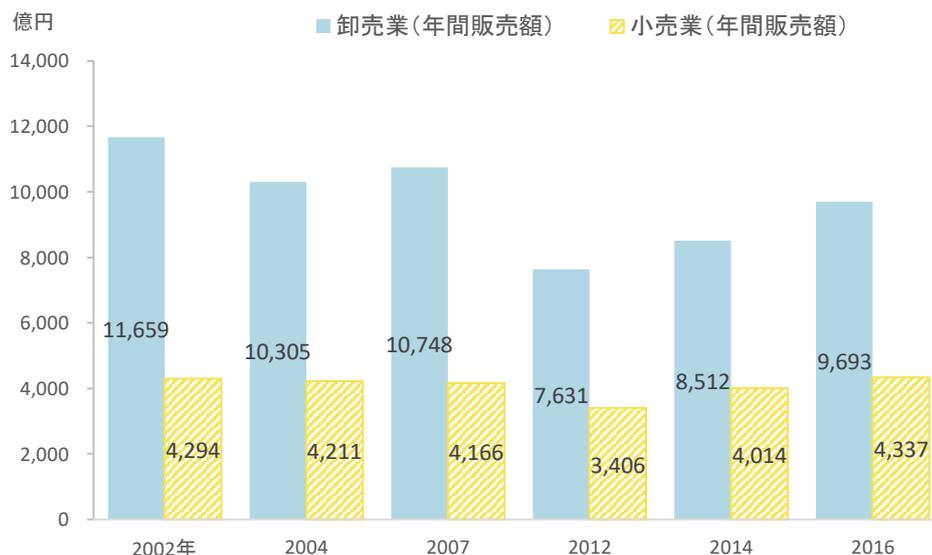
2012年は2月1日現在
2014年は7月1日現在
その他は各年6月1日現在



資料：経済センサス

●年間販売額（卸売・小売）

2012年は2月1日現在
2014年は7月1日現在
その他は各年6月1日現在



資料：経済センサス

⑤ 観光・コンベンション

本市は、温泉や歴史的・文化的遺産を有しており、また、ビッグパレットふくしまや郡山ユラックス熱海をはじめとするコンベンション施設の整備により、全国各地から数多くの観光客やビジネス客が訪れています。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2（2020）年時点においては、大会件数、参加者数共に大きく減少しています。

●郡山エリアコンベンション開催状況



※郡山エリア・・・

ここでの「郡山エリア」とは、（公財）郡山コンベンションビューローを構成する郡山市、会津若松市、いわき市、白河市、須賀川市、喜多方市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、下郷町、檜枝岐村、北塩原村、猪苗代町、西郷村、石川町、玉川村、平田村、古殿町、三春町、小野町の23市町村のエリア

資料：（公財）郡山コンベンションビューロー

●観光施設・観光イベント入込数



※2011年の郡山市こどもまつりは東日本大震災の影響により中止

2020、2021年のまつりは、新型コロナウイルスの影響により中止

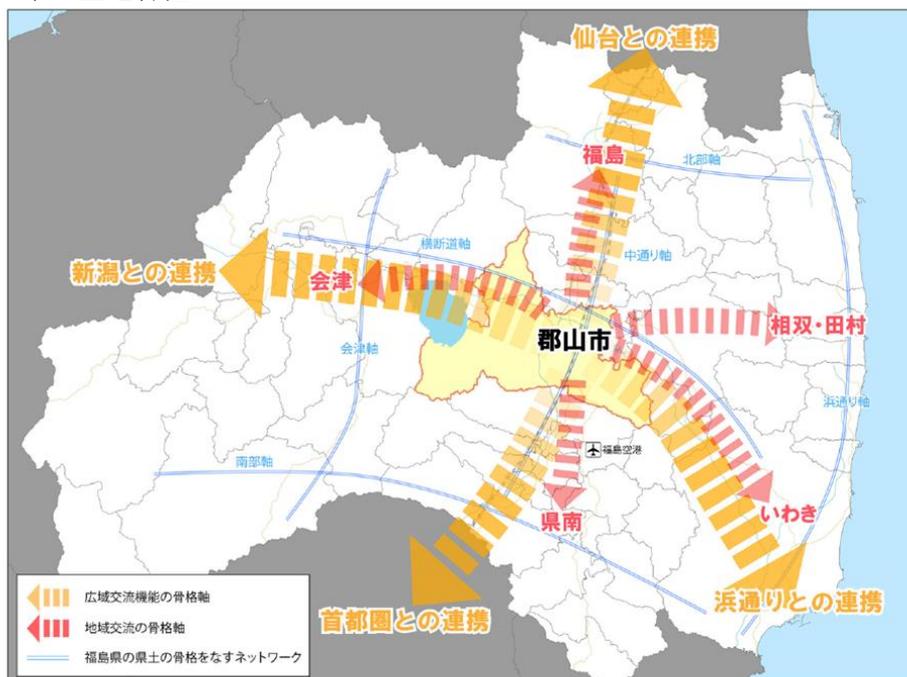
資料：郡山市（観光課）

(5) 周辺市町村との連携

① 立地特性

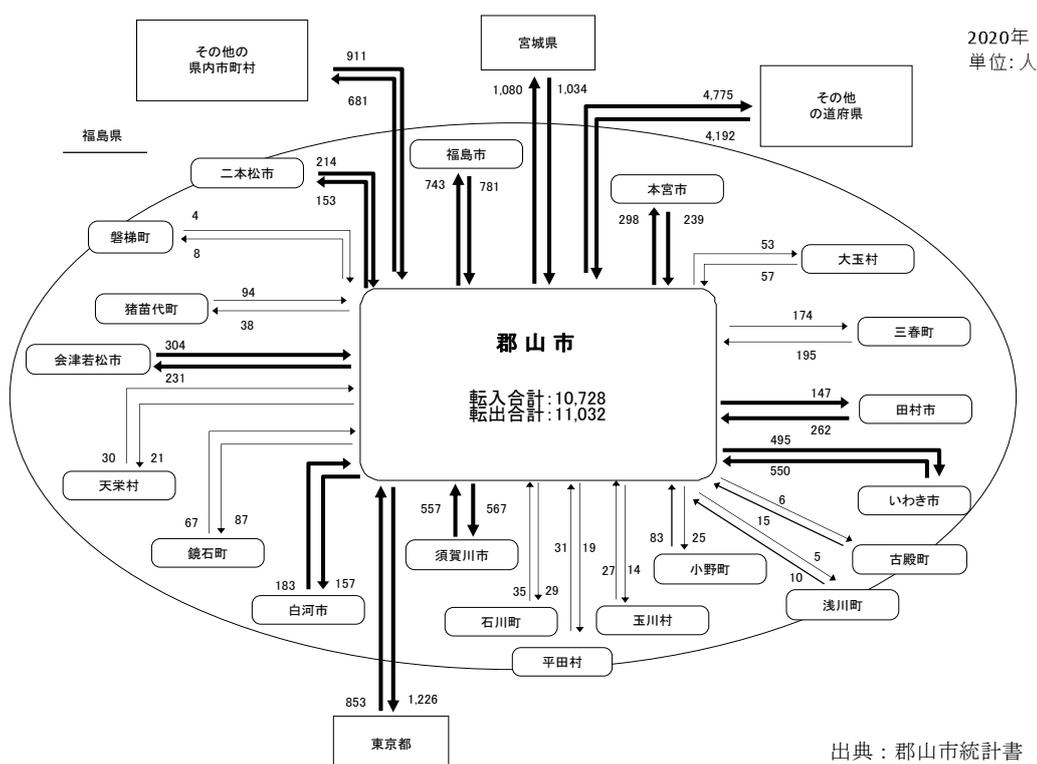
本市は、福島県の中央に位置するとともに、首都圏と東北、さらには太平洋側と日本海側とを結ぶ広域的なネットワークの結節点となっています。利便性の高さから、産業、教育、医療流通等の都市機能が集積する福島県の中心拠点となっています。

● 郡山市の立地特性



出典：郡山市都市計画マスタープラン 2015

● 郡山市の転入・転出の状況



② こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）

本市は福島県の「経済県都」と称され、広域圏の中心都市として地域経済をけん引する役割を果たしていく必要があります。17市町村による「こおりやま広域圏」を形成し、少子高齢・人口減少社会にあっても地域を活性化し経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適に暮らしを営んでいけるよう取組を進めています。

つながる・広がる こおりやま広域圏

まゆみちゃん(本宮市) がくとくん(郡山市) ふたまたぎつね(天栄村) キララちゃん(石川町)
 ボータン(須賀川市) たまちゃん(大玉村) あさまる(浅川町) こまりん(三春町)
 口のぼんしい(磐梯町) 牧場のあーさー(藤石町) シュッピー(平田村) ひでよくん(猪苗代町) カプテン(田村町) 菊松くん(二本松市) クックちゃん(玉川村) やぶさめくん(古殿町) 小桜ちゃん(小野町)

ONE TEAM 17 円卓会議
こおりやま広域圏は、各市町村が対等な立場で協議解決に取り組む仕組みです。

みんなが“安心して 元気に”暮らせる広域圏に！

「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」は、福島県の中央に位置する17市町村で形成され、みんなが“安心して 元気に”暮らし続けられるよう、災害への備えや健康寿命の延伸など、「気候変動対応型全世代健康都市圏」を目指します。合言葉は「広め合う、高め合う、助け合う。」魅力あふれる「こおりやま広域圏」を、みんなで一緒に作りましょう！

詳しくはコチラ！

郡山市

お問い合わせ先
郡山市政策開発部政策開発課
〒963-8601 郡山市郡山一丁目23番7号
TEL.024-924-2021
saisaku@kaihatsukcity.koriyama.lg.jp

SDG 17
2022年6月発行

① 郡山市	② 須賀川市	③ 二本松市	④ 田村市
⑤ 本宮市	⑥ 大玉村	⑦ 鏡石町	⑧ 天栄村
⑨ 磐梯町	⑩ 猪苗代町	⑪ 石川町	⑫ 玉川村
⑬ 平田村	⑭ 浅川町	⑮ 古殿町	⑯ 三春町
⑰ 小野町			

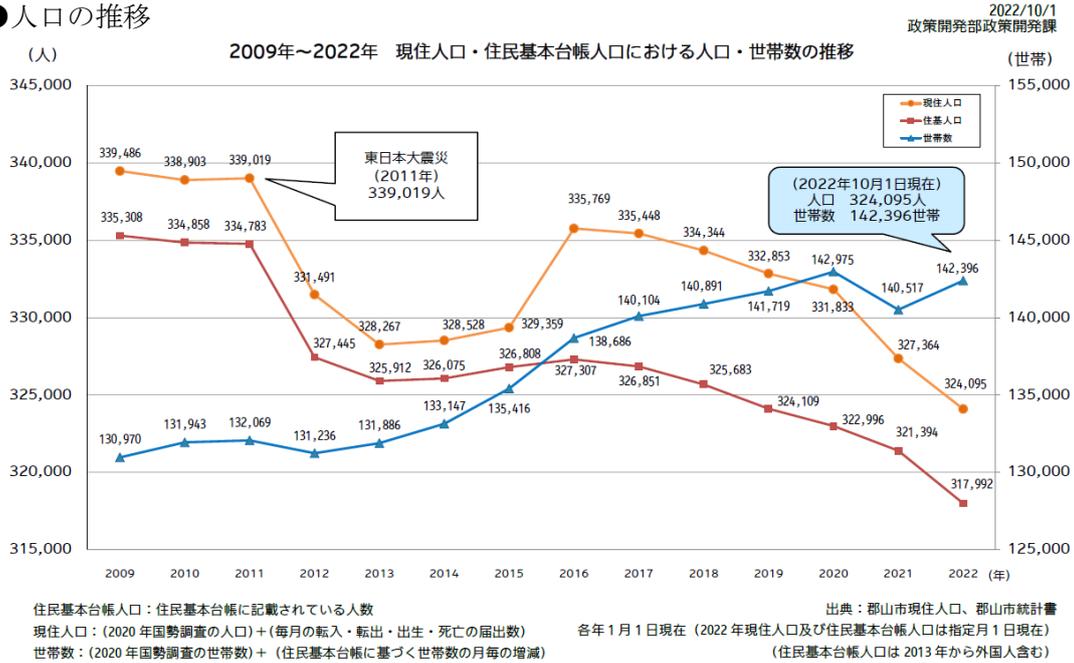
1-2 現状と課題

(1)人口の動向等

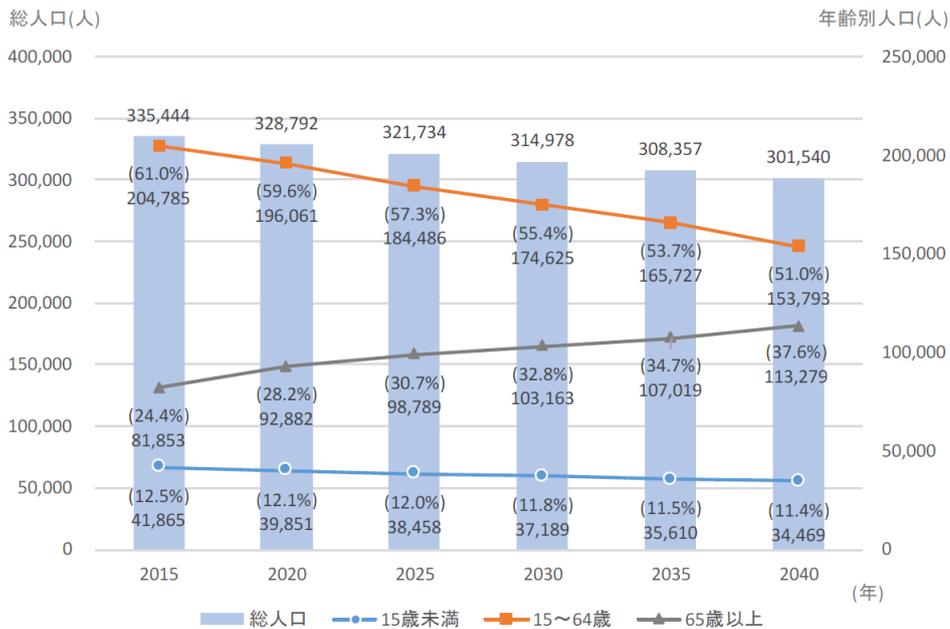
① 人口の推移

本市の人口は、平成16（2004）年をピークに減少に転じ、令和4（2022）年の現住人口は、324,095人ですが、今後も減少していくことが予測されています。また、年齢別では、老年人口（65歳以上）は増加する一方、生産年齢人口（15歳～64歳）、年少人口（15歳未満）は減少し、少子高齢化の傾向は更に進むものと予測されています。

●人口の推移



●将来展望人口



※2015年は国勢調査による現住人口

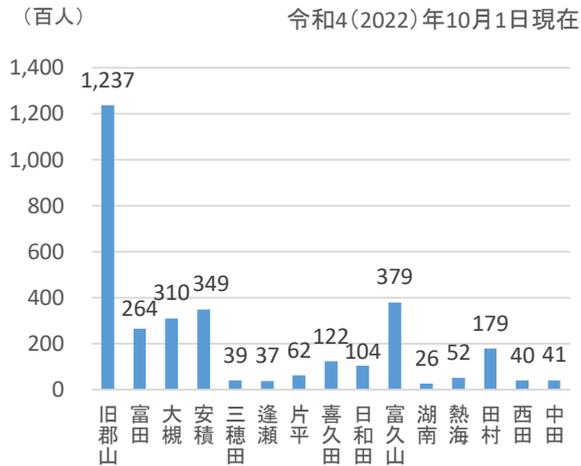
2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所推計準拠の推計人口に、社会移動率や出生率の改善、近年の外国人の増加傾向を反映した将来展望人口

出典：郡山市人口ビジョン（2020改訂）

② 人口の分布

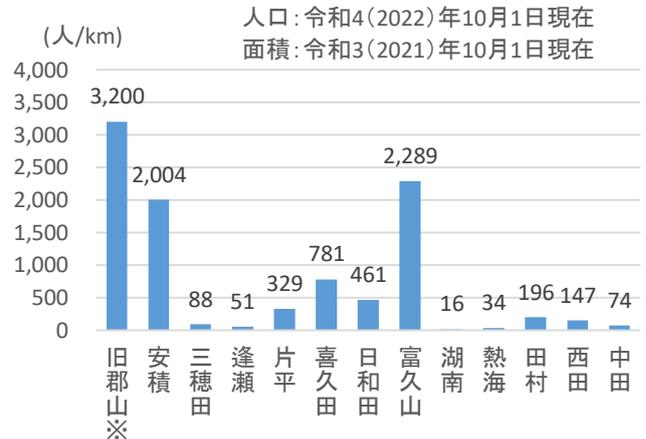
平成 27 (2015) 年の人口分布状況をみると、旧郡山地区を中心に富田町、大槻町、安積町、富久山町に人口が集中しています。また、郊外部において、宅地開発等により部分的に人口が集中している地区も見られます。

●地区別人口 (全年齢)



資料：現住人口

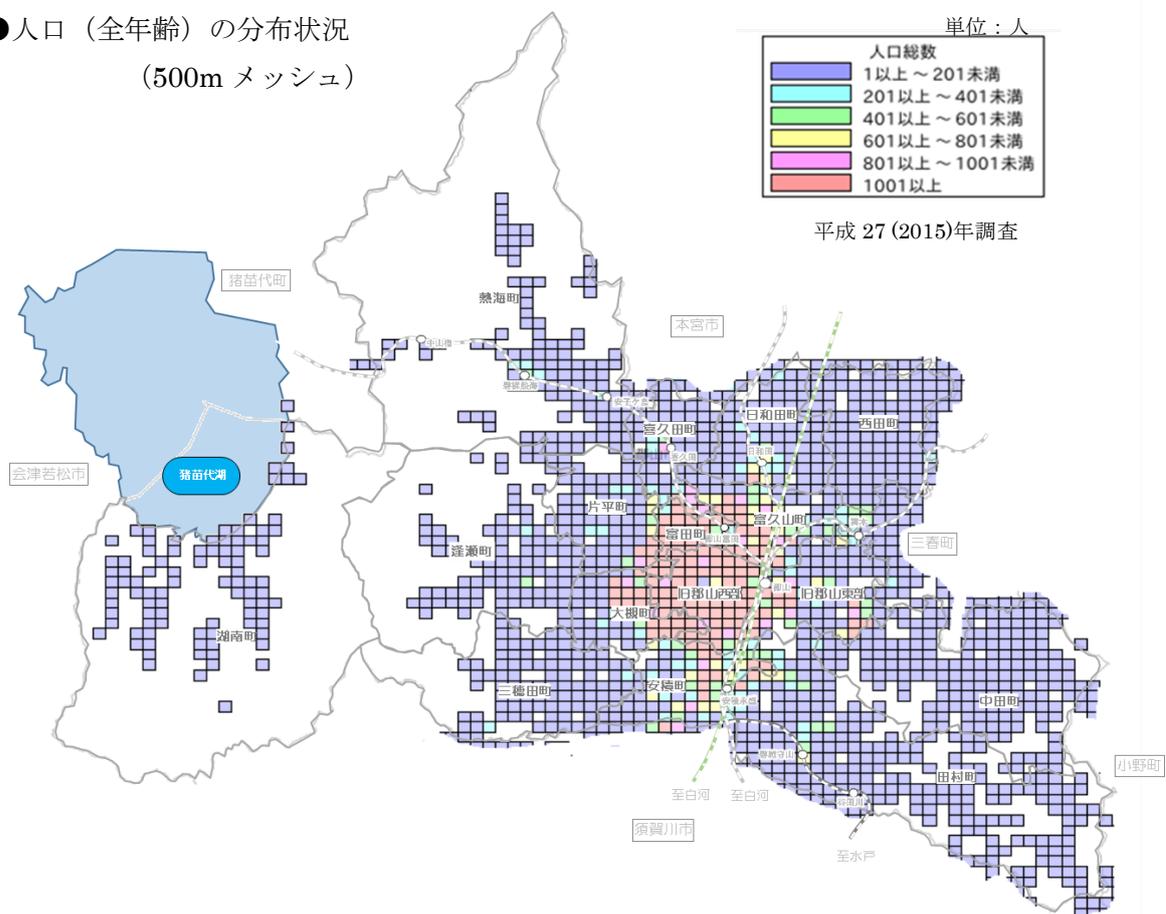
●地区別人口密度



※ここでの旧郡山は、旧郡山西部、旧郡山東部、富田町、大槻町を含む

資料：人口は現住人口、面積は総務法務課

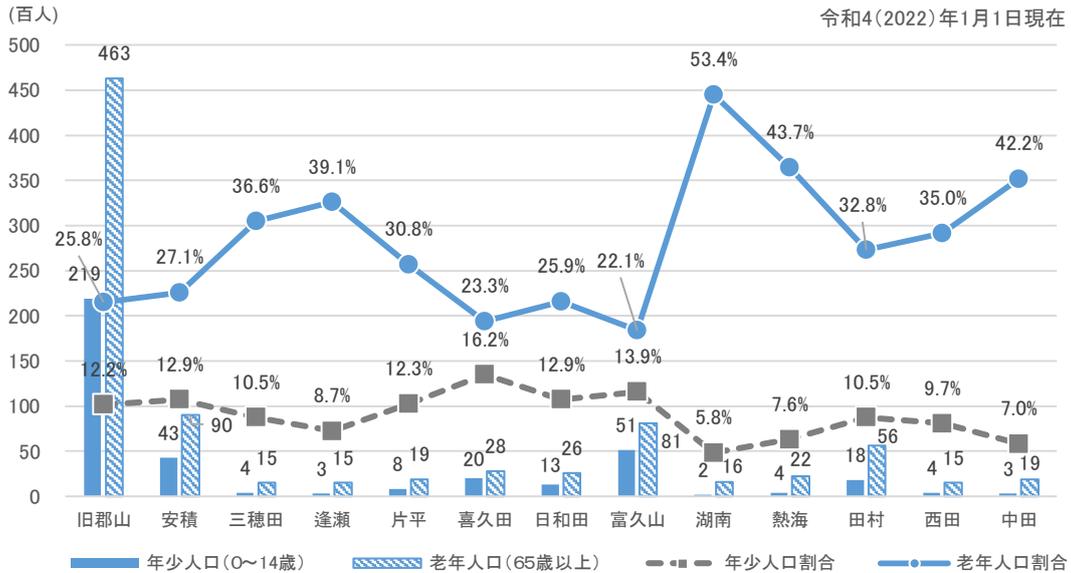
●人口 (全年齢) の分布状況 (500m メッシュ)



③ 年少・老年人口

地区別に年少人口（15歳未満）と老年人口（65歳以上）の状況をみると、人口規模の大きい旧郡山地区においては、年少・老年人口とも多くなっており、他の地区に比べて倍以上となっています。また、地区全人口に対する年少・老年人口の割合をみると、各地区とも年少人口の割合は8～16%となっているのに対して、老年人口の割合は郊外部において大きくなっており、特に湖南町、熱海町、中田町では4割以上を占めています。

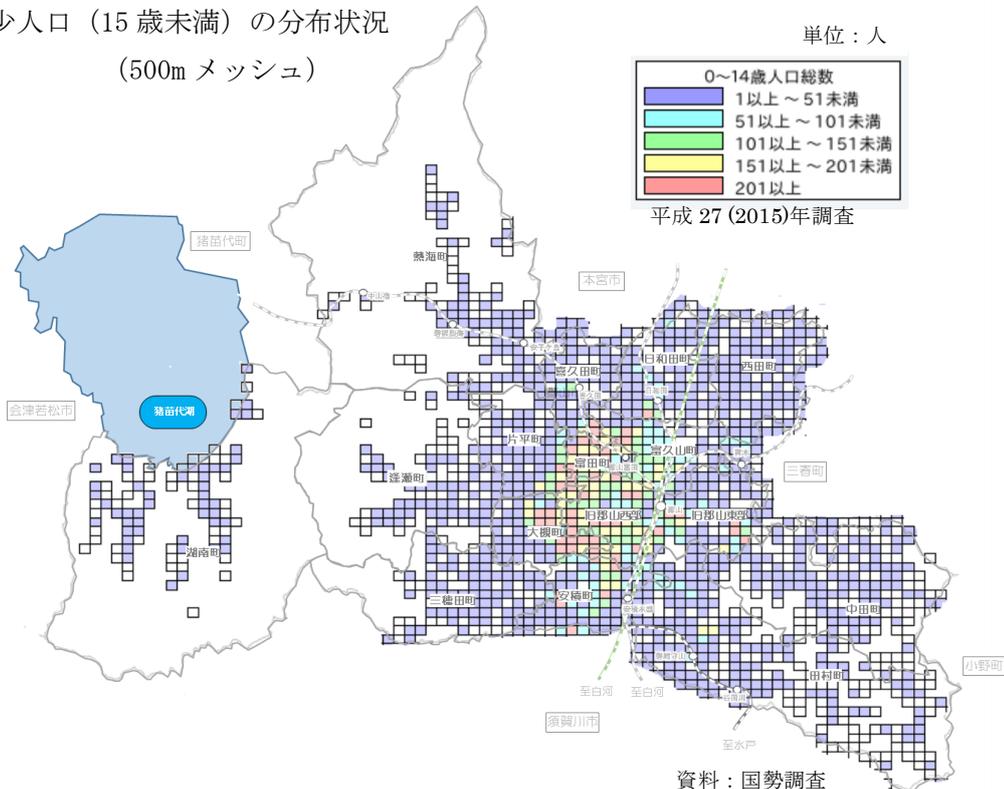
●地区別年少・老年人口及び割合



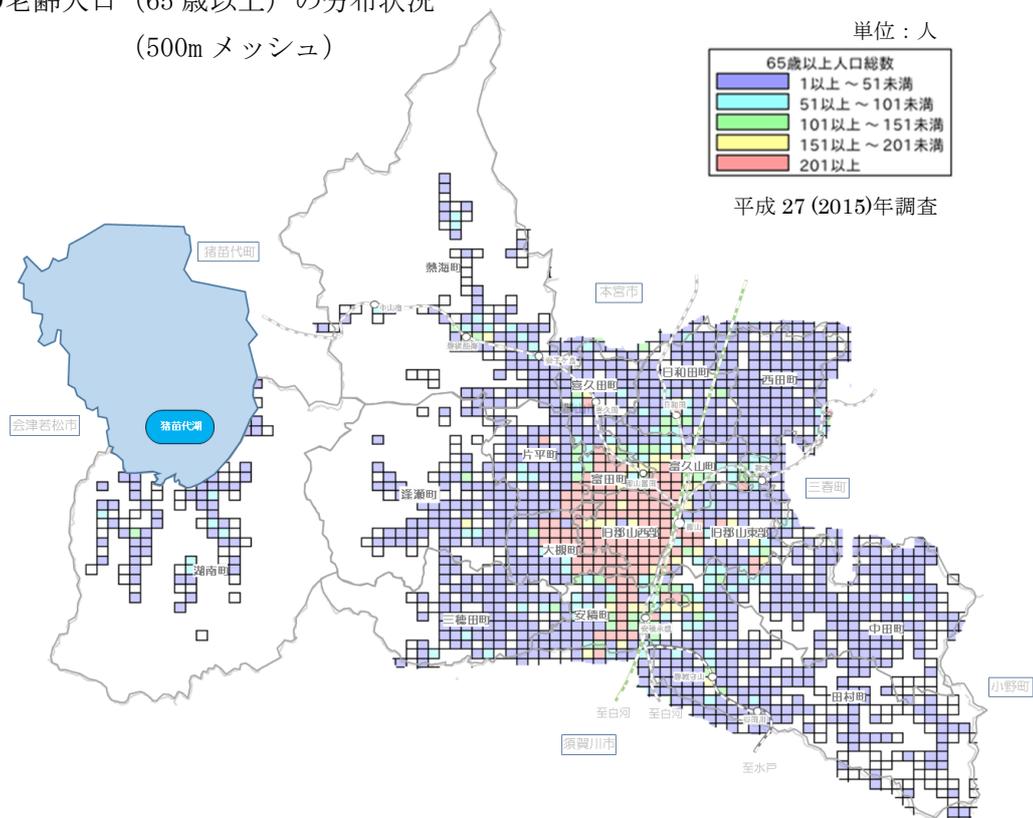
資料：住民基本台帳人口

●年少人口（15歳未満）の分布状況

(500mメッシュ)

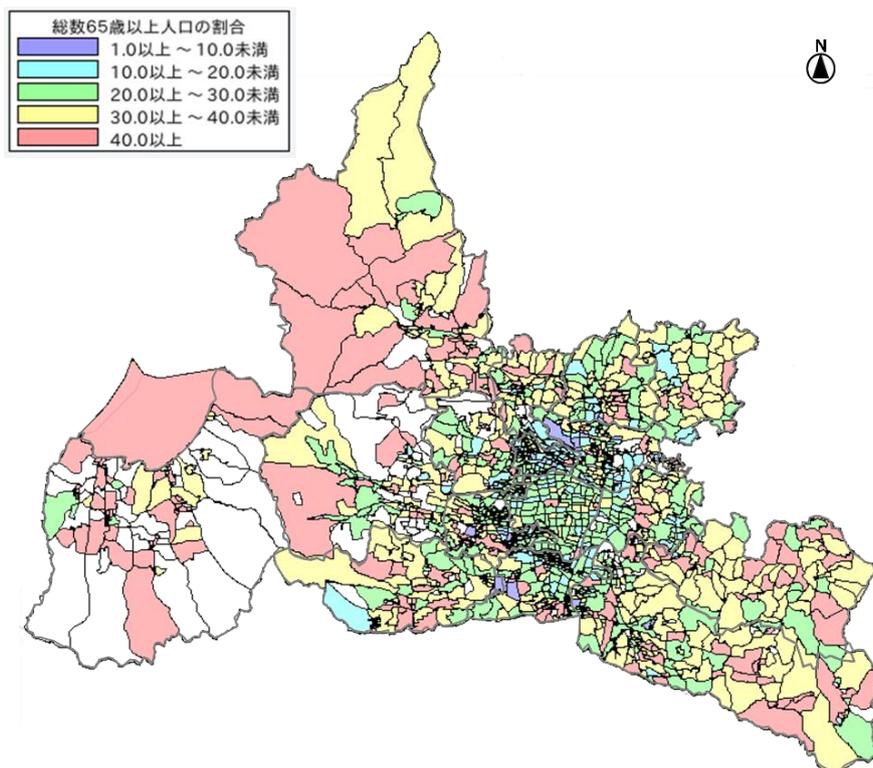


●老齡人口（65歳以上）の分布状況
（500m メッシュ）



資料：国勢調査

●地域別（町丁・字等別）の高齢化率

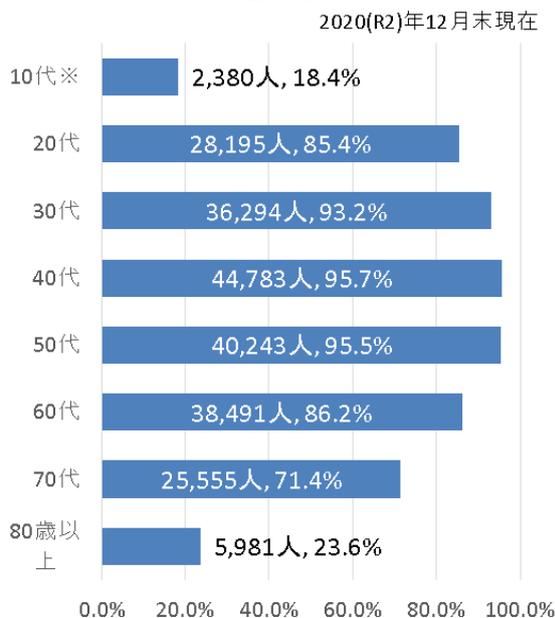


資料：国勢調査

④ 運転免許保有率及び運転免許の返納状況

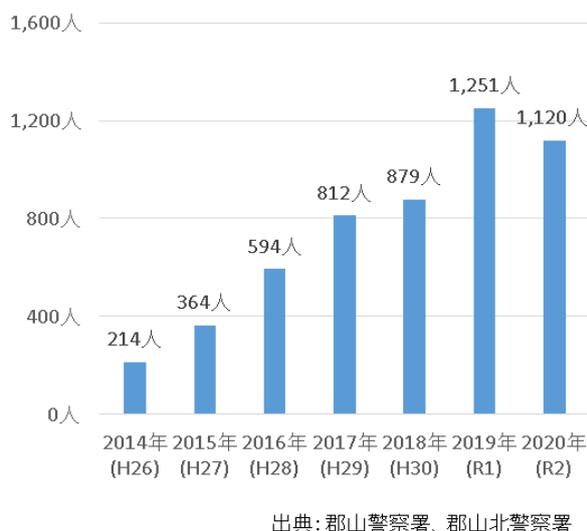
郡山市内の運転免許保有率をみると、60代以上の方々から免許保有率は低くなりますが、60代では約86.2%、70代では約71.4%、80代では約23.6%の保有状況になっています。一方、運転免許の返納者数も年々増加傾向にあり、自家用車による移動が困難な高齢者が更に増加すると予想されます。

●郡山市内における運転免許保有率

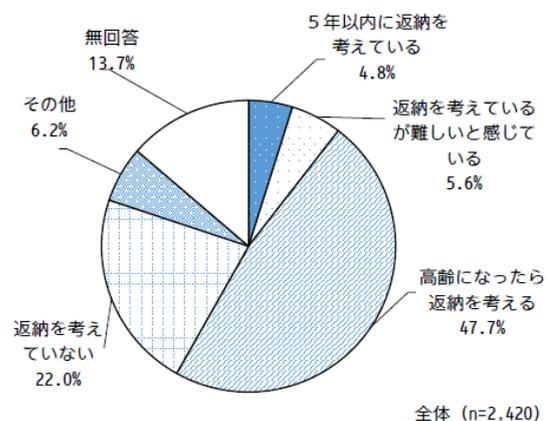


(資料) 運転免許保有者数: 福島県警察本部 令和3年度交通白書
住民基本台帳人口

●郡山市内における運転免許返納者数の推移



●郡山市内における運転免許の返納意識



資料: 移動実態及び公共交通に関する意識調査 (郡山市)

《課題》 (1)人口の動向等

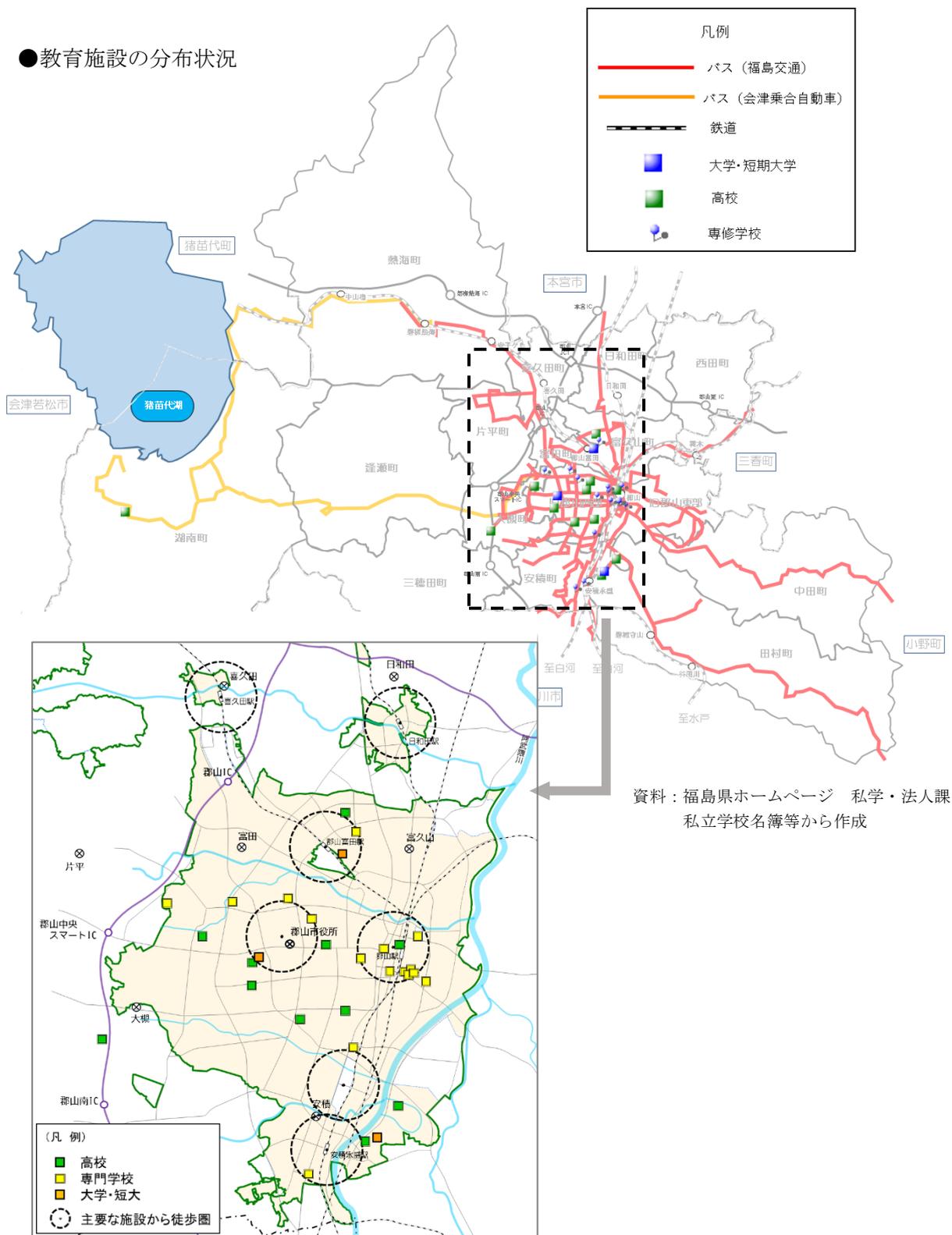
- ◆総人口の減少が予測される中、身体的に移動制約が高く、自動車の運転となる困難となる高齢者人口は増加する見込みであり、高齢者の生活の足の確保が必要になります。
- ◆運転免許の返納者数は年々増加しており、免許返納する方々への移手段の確保が必要になります。
- ◆人口減少が進む中において、市街地にお住まいの方々と郊外部にお住まいの方々の交通需要、それぞれに移動サービスの提供を検討する必要があります。

(2) 都市機能の配置

① 教育施設

郡山市内の教育施設は、市域中央部に集中して立地しており、いずれの施設も駅・バス停に近接しています。

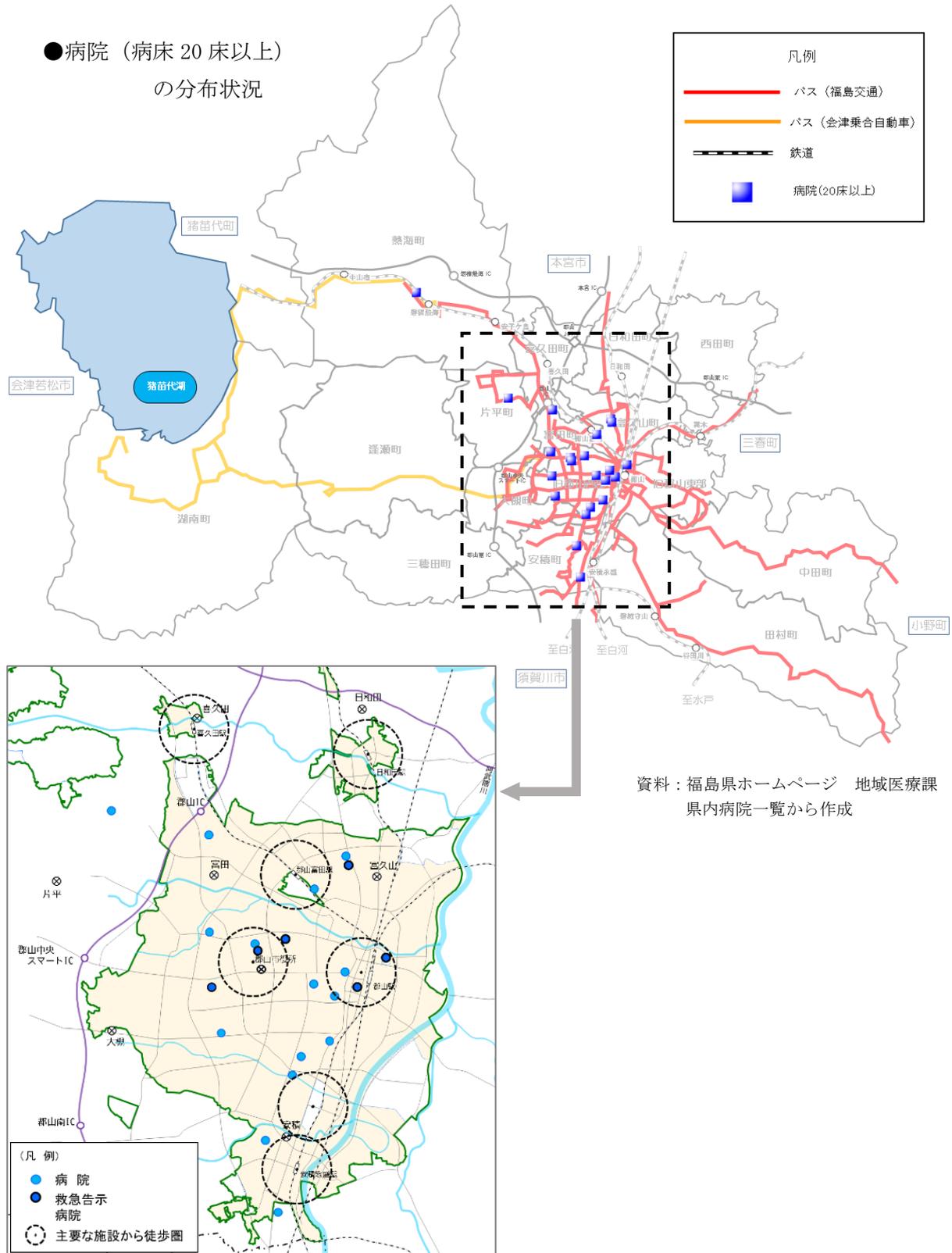
● 教育施設の分布状況



出典：郡山市立地適正化計画

② 医療施設

郡山市内の医療施設は、市域中央部に集中して立地しており、いずれの施設も駅・バス停に近接しています。近年、老朽化が著しい病院施設の建て替えなどの更新が顕著に行われています。

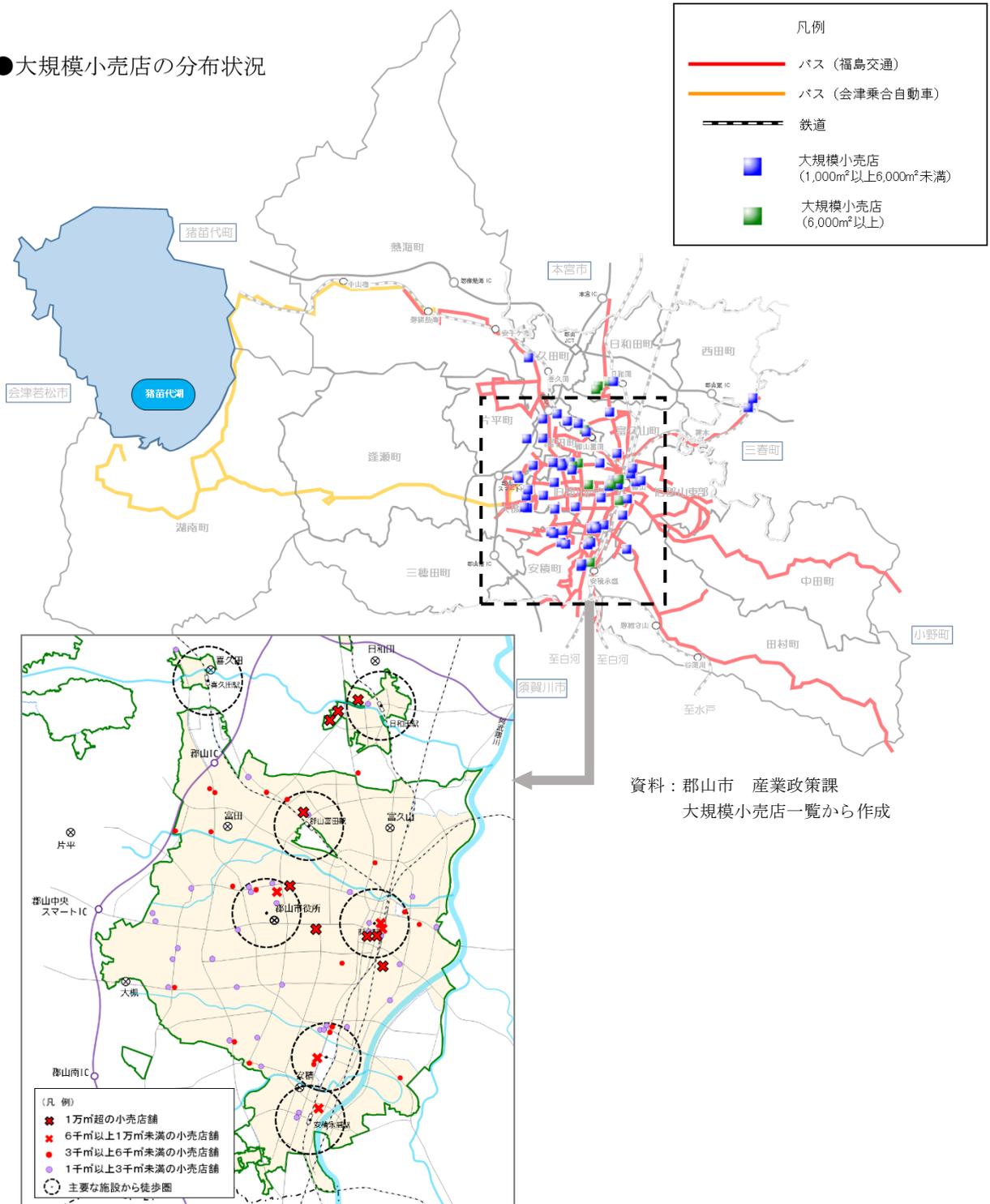


出典：郡山市立地適正化計画

③ 商業施設

商業施設のうち、大規模小売店（店舗面積 1,000 m²以上）の分布状況をみると、市域中央部に集中して立地していますが、駅・バス停が近接していない施設もあります。都市の中心部に立地していた大規模小売店は、モータリゼーションの進行に伴い、道路アクセスがよく、地価の安い郊外部への立地が進んでいます。

●大規模小売店の分布状況

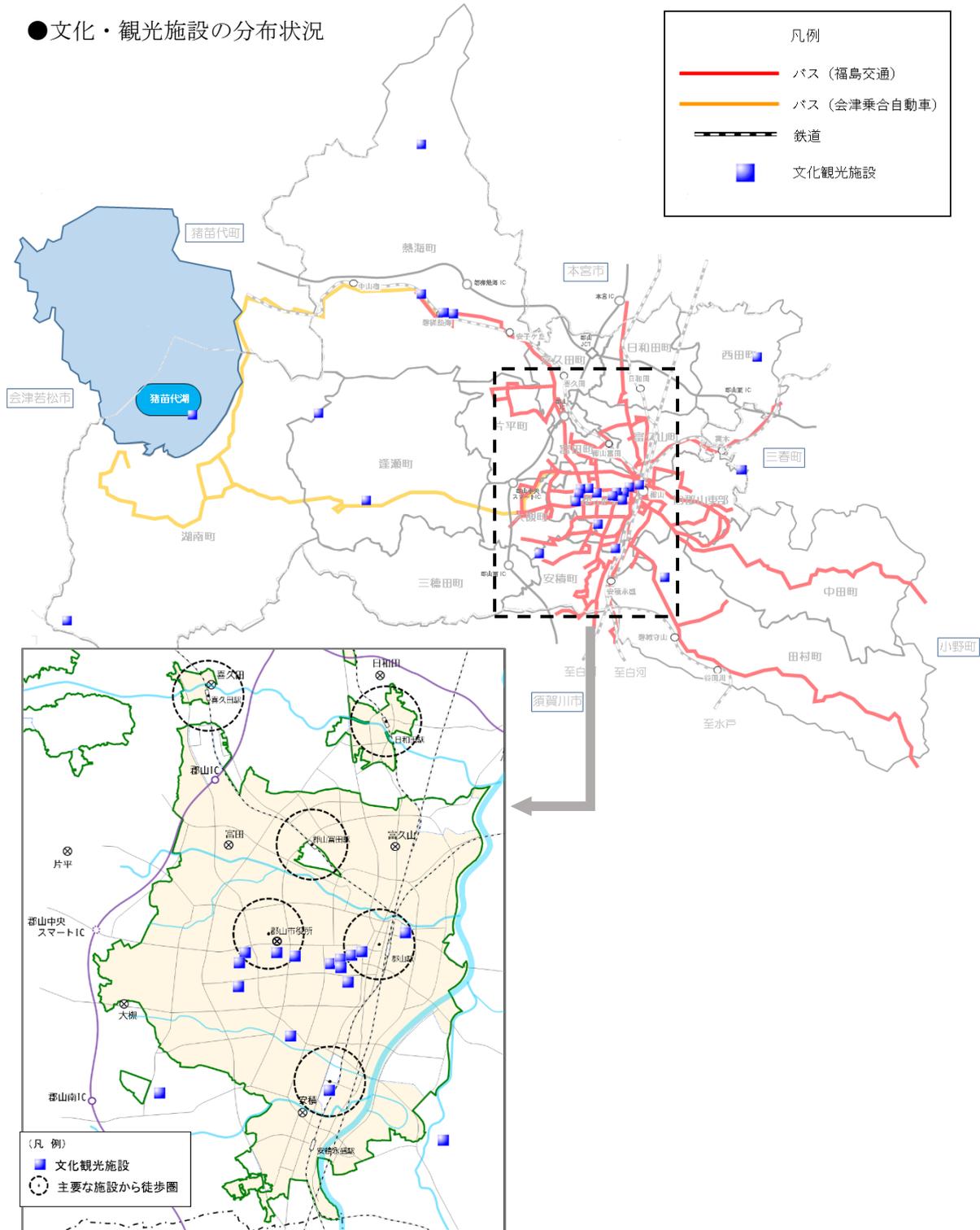


出典：郡山市立地適正化計画掲載資料を加工

④ 文化・観光施設

郡山市内の文化施設・観光レジャー施設の分布状況を見ると、市域中央部に多く立地している一方で、自然を楽しむ観光地が郊外部に広く点在しています。市街地の文化・観光施設については駅・バス停に近接していますが、郊外部において駅・バス停が付近にない施設があります。

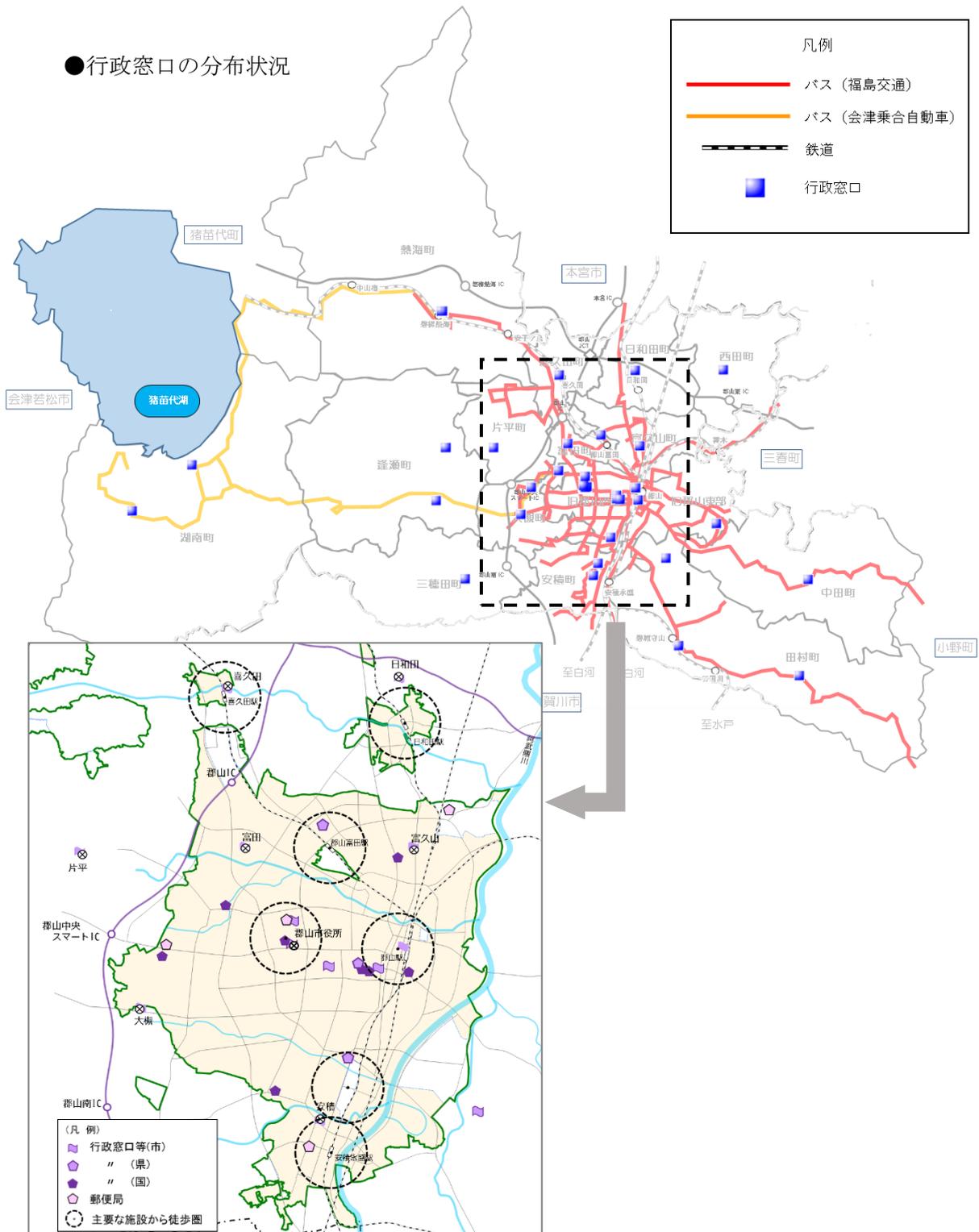
●文化・観光施設の分布状況



資料：郡山市観光協会ウェブサイトから作成

⑤ 行政窓口

市役所や行政センター等の行政窓口の分布状況をみると、各地区に1、2施設程度立地しており、広い市域全体を網羅しています。日和田町や西田町、逢瀬町、三穂田町、田村町には、駅・バス停が付近に無い施設があります。



資料：郡山市立地適正化計画

《課題》 (2) 都市機能の配置

◆市街地における主要な生活サービス施設は、おおむねバス停や鉄道駅が近接しており、公共交通を利用することができますが、大規模な商業施設や文化・観光施設等、郊外部への立地により、公共交通を利用できない施設が一部あることから、需要に応じて、公共交通を確保する必要があります。

◆商業施設をはじめ、生活サービス施設が都市全体に無秩序に立地していくと、自動車利用が加速され、高齢者等の自動車を利用されない方々の移動手段の確保はますます困難となります。このため、都市機能の立地に際しては、公共交通の利用を見据えた配置または公共交通の確保が必要となります。

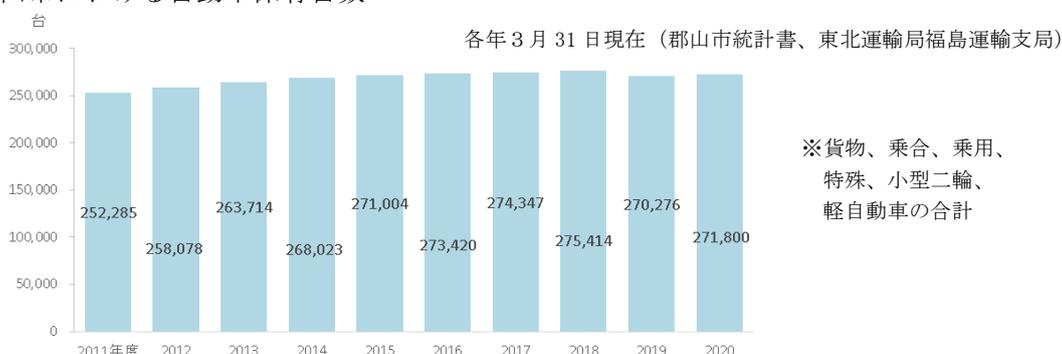
◆今後も都市機能を持続的に維持できるように人口の集積や公共交通等のアクセスの充実が必要となります。

(3) 移動特性

① 自動車保有台数及び自動車運転免許者数

本市における自動車保有台数と自動車運転免許者数の推移をみると、ここ数年は横ばいの傾向にあります。平成 23 (2011) 年と比較し、令和 2 (2020) 年では、自動車保有台数が約 7.7%、自動車運転免許者数で約 2.2%増加しています。また、令和 2 (2020) 年における本市の 1 世帯当たりの自動車保有台数 (271,800 台/142,975 世帯) は約 1.9 台となっています。

●郡山市における自動車保有台数



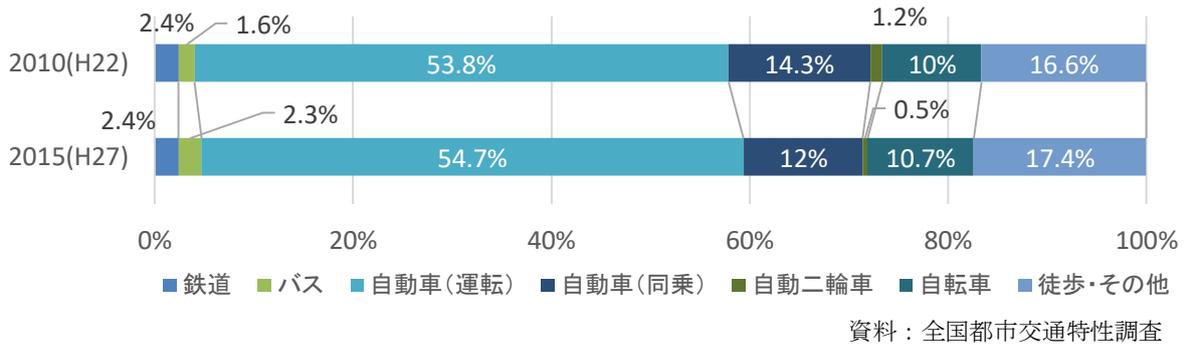
●郡山市における自動車運転免許者数



② 交通手段分担率

本市における交通手段分担率をみると、モータリゼーションの進行や都市機能の拡散等の影響もあり、平成 27 (2015) 年で、「自動車 (運転)」が 54.7%、「自動車 (同乗)」が 12.0%、合わせて 66.7%となっており、自動車への高い依存傾向がみられます。一方で、鉄道やバス等の公共交通の利用は、平成 27 (2015) 年で 4.7%と低い状況です。

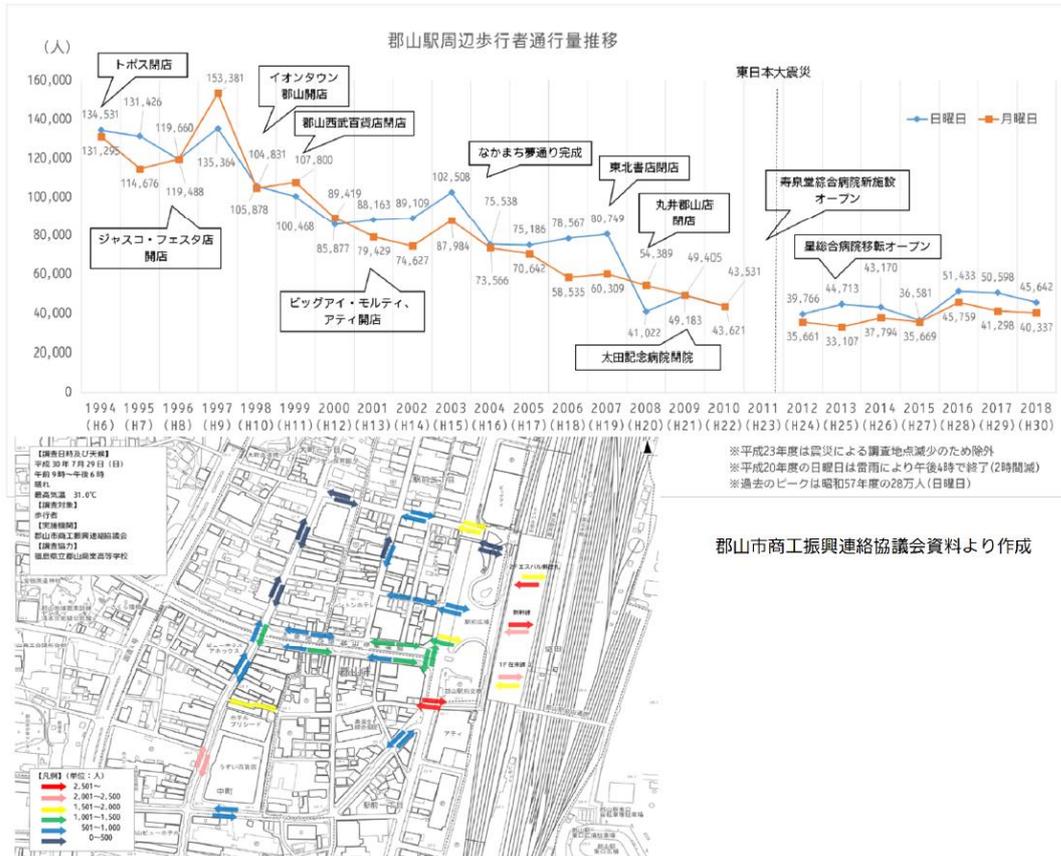
● 郡山市における交通手段分担率



③ 郡山駅西口周辺の歩行者通行量

郡山駅西口周辺の歩行者交通量の推移をみると、20年間で約 1/3 に減少していますが、近年は横ばいの状況です。比較的規模の大きい商業施設の閉店または郊外への新規出店に伴い、駅周辺を回遊する方々が減少しています。

● 郡山駅周辺の歩行者通行量の推移



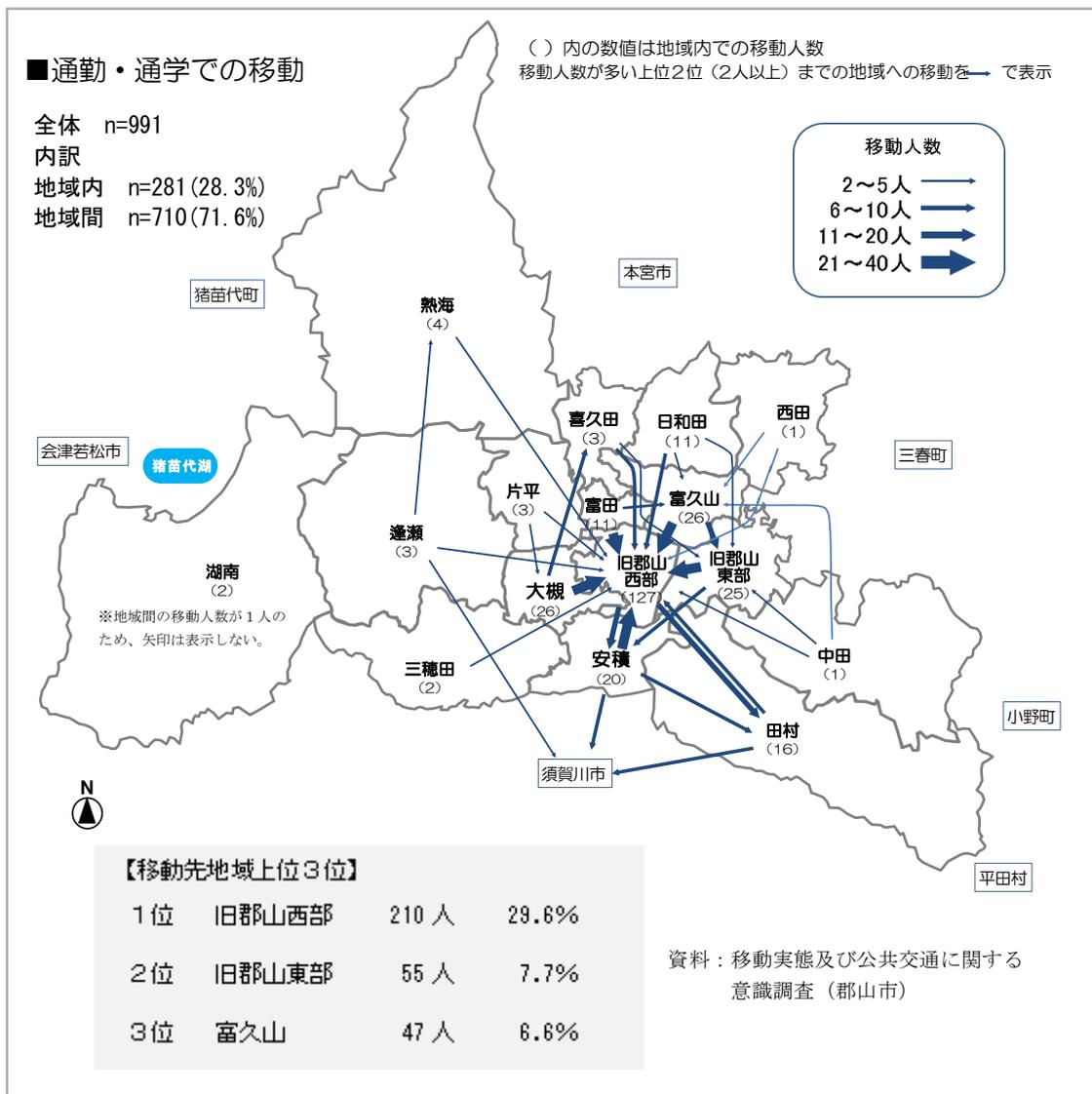
④ 通勤通学・通院・買い物の移動実態

ア) 通勤・通学の移動状況

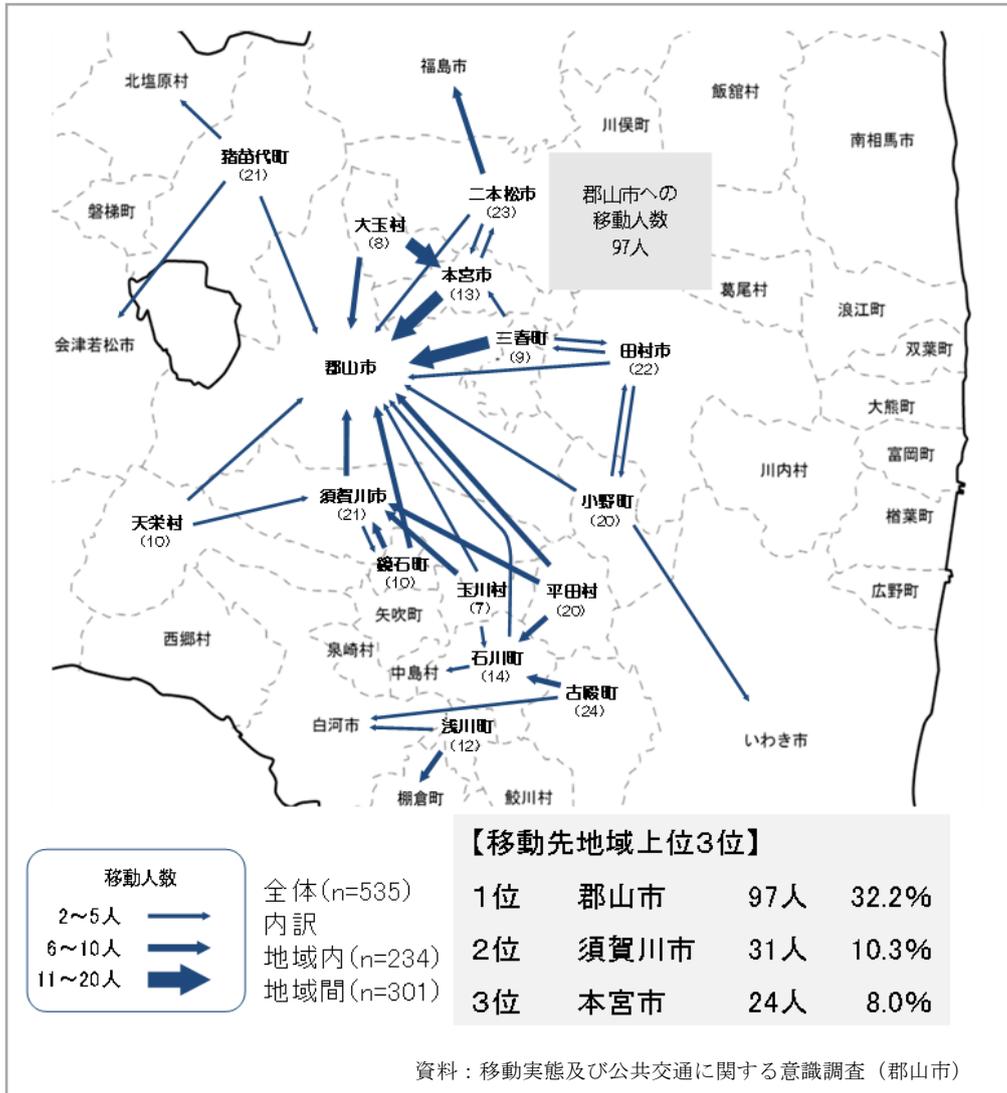
郡山市内における通勤通学の移動状況を見ると、地域間の移動が約70%と多数を占めており、特に、市役所等の官公庁をはじめ、事業所や高等学校等の教育機関が集中する旧郡山西部への移動が全体の約30%と多くなっています。

また、こおりやま広域圏における通勤通学の移動状況を見ると、市町村間の移動が約60%となっており、特に、他の近隣市町村と比較して教育機関や事業所が多く立地する郡山市への移動が全体の約30%と多くなっています。

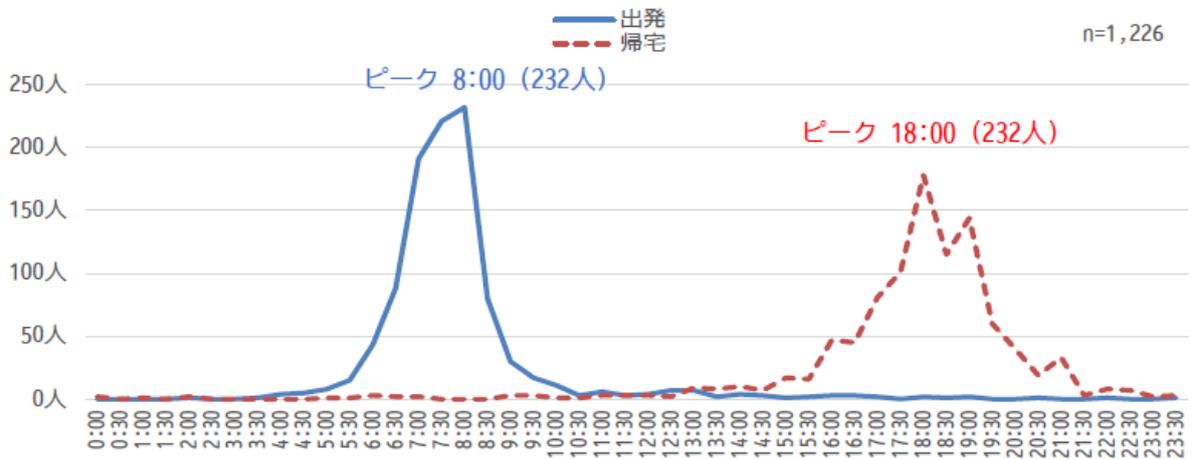
●郡山市内における通勤・通学の移動状況



●こおりやま広域圏における通勤・通学の移動状況



●出発・帰宅時間の状況（郡山市内の通勤・通学）



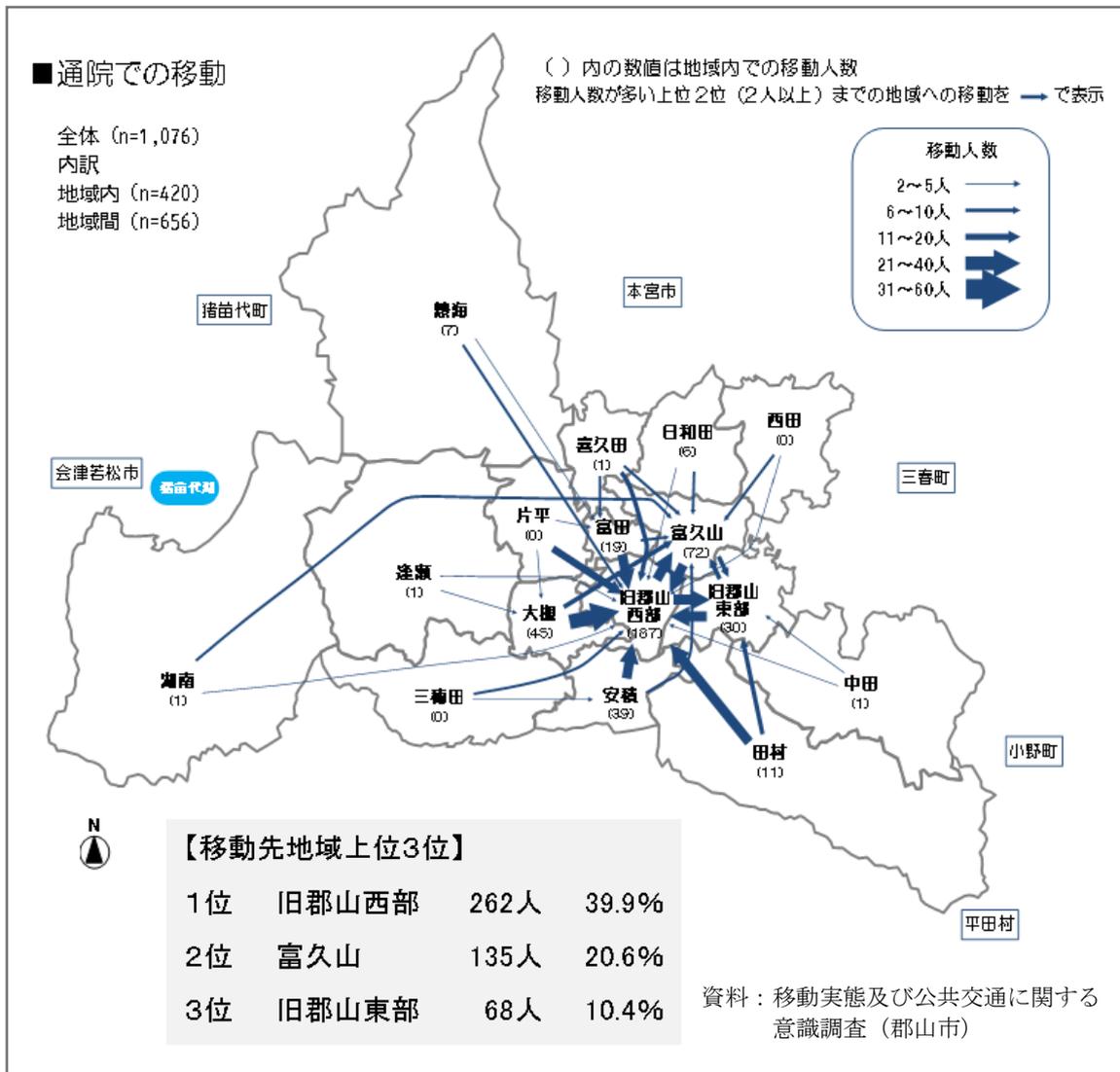
資料：移動実態及び公共交通に関する意識調査（郡山市）

イ) 通院の移動状況

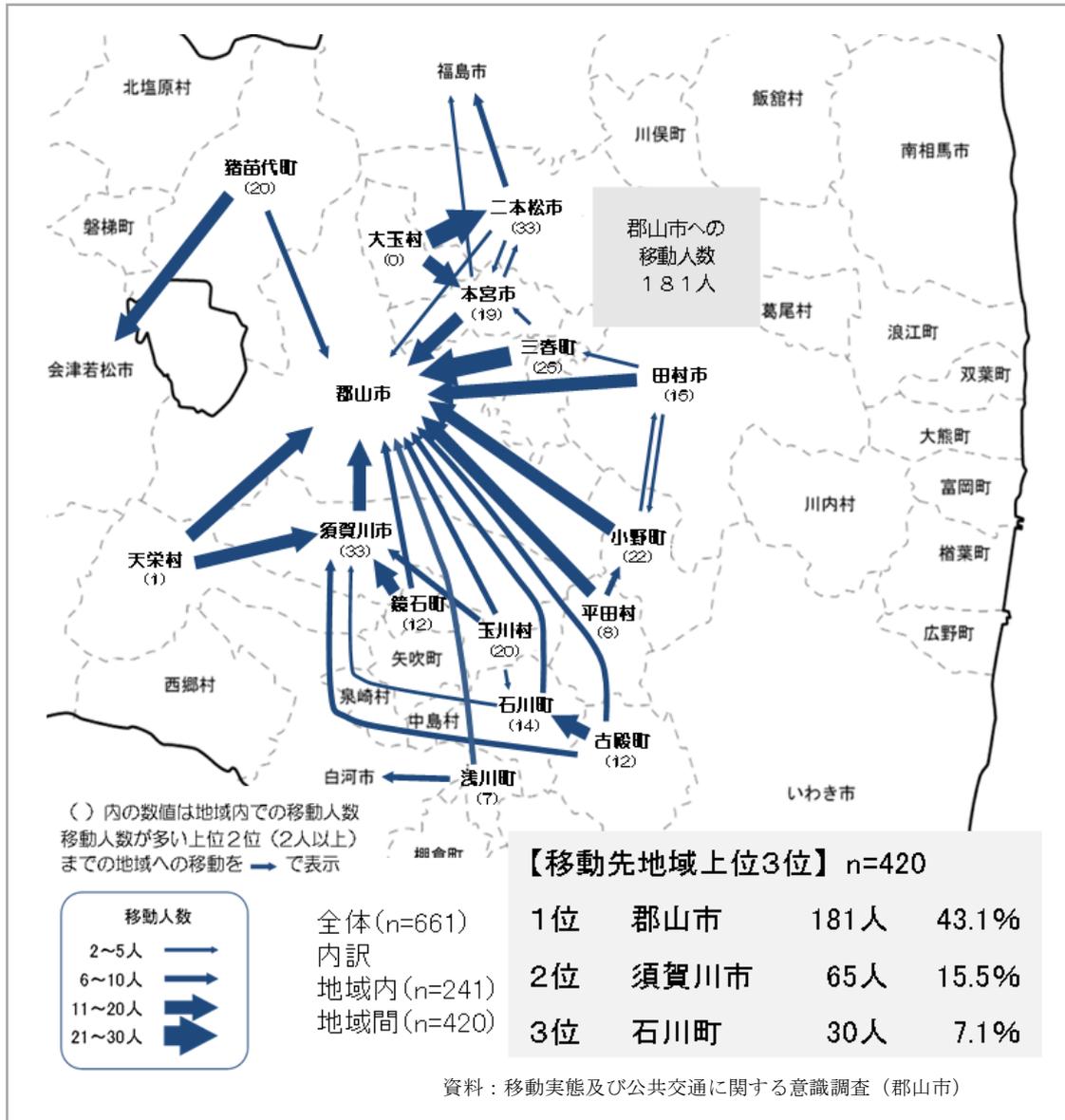
郡山市内における通院での移動状況をみると、地域間の移動は約60%であり、大規模病院が立地している旧郡山西部（太田西ノ内病院・寿泉堂総合病院）、富久山（総合南東北病院等）、旧郡山東部（星総合病院等）への移動が多くみられます。一方で、地域内の移動は約40%となっており、市内に多数点在する診療所への通院も多く見受けられます。

また、こおりやま広域圏における通院での移動状況をみると、市町村間の移動は約60%であり、大規模病院が立地している郡山市への移動が約40%と多くを占めています。

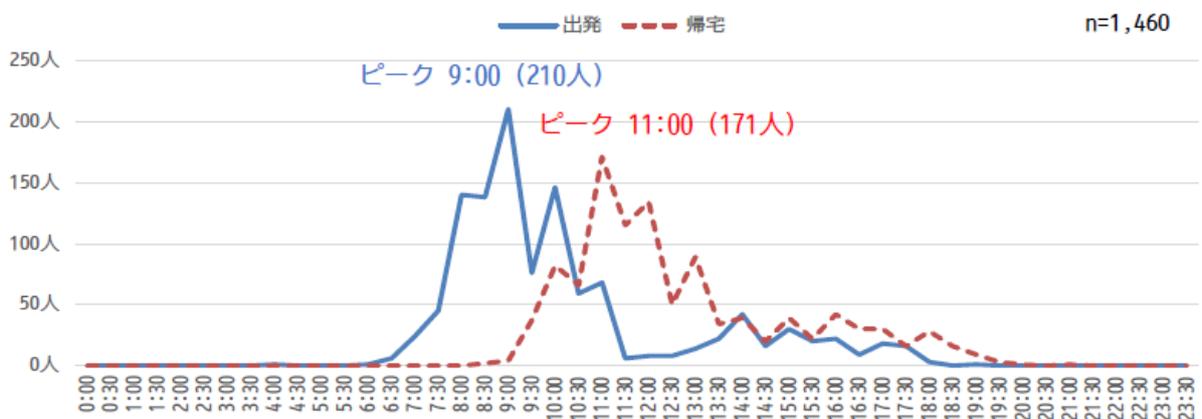
●郡山市内における通院の移動状況



●こおりやま広域圏における通院の移動状況



●出発・帰宅時間の状況（郡山市内の通院）



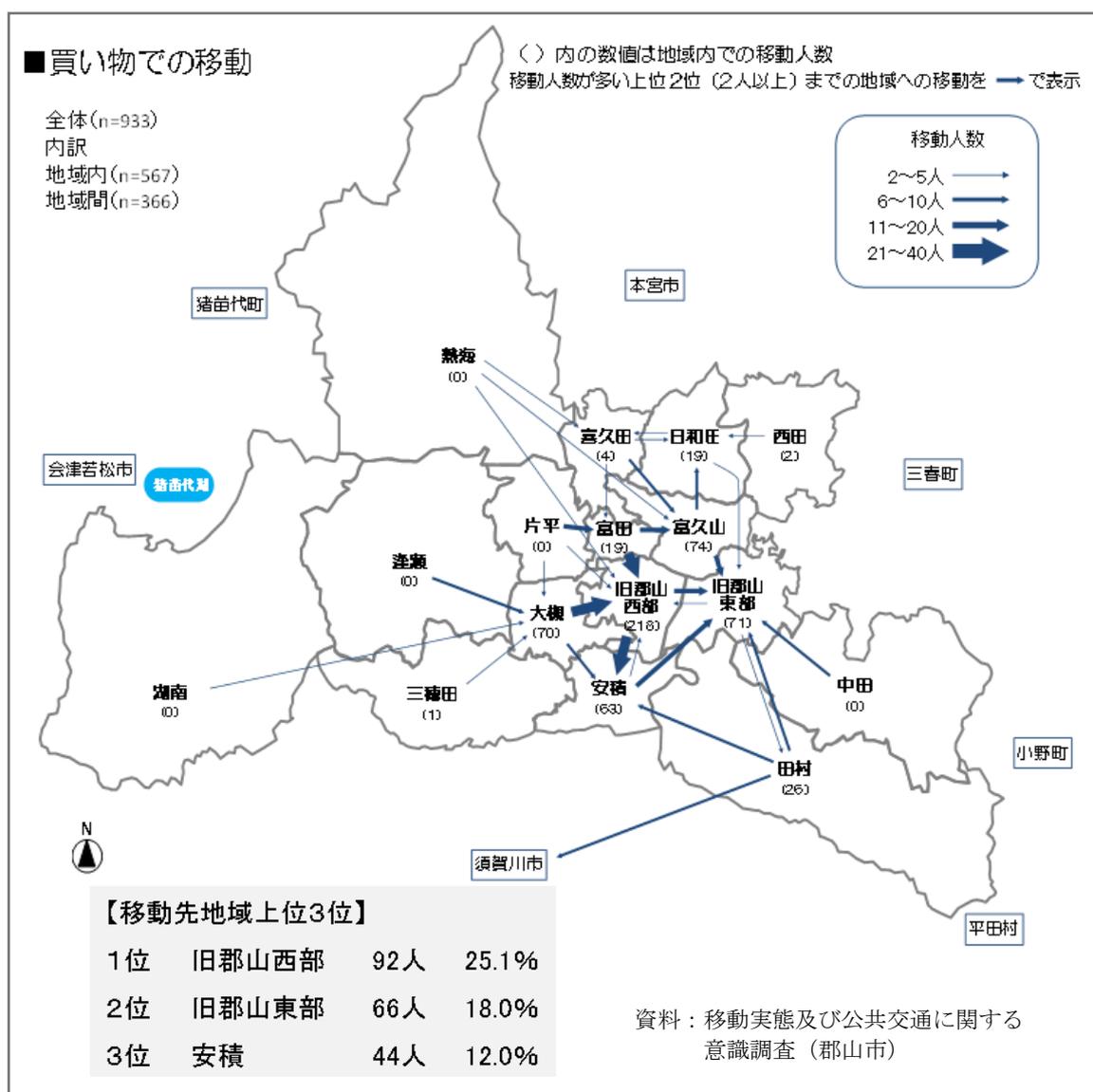
資料：移動実態及び公共交通に関する意識調査（郡山市）

ウ) 買い物の移動状況

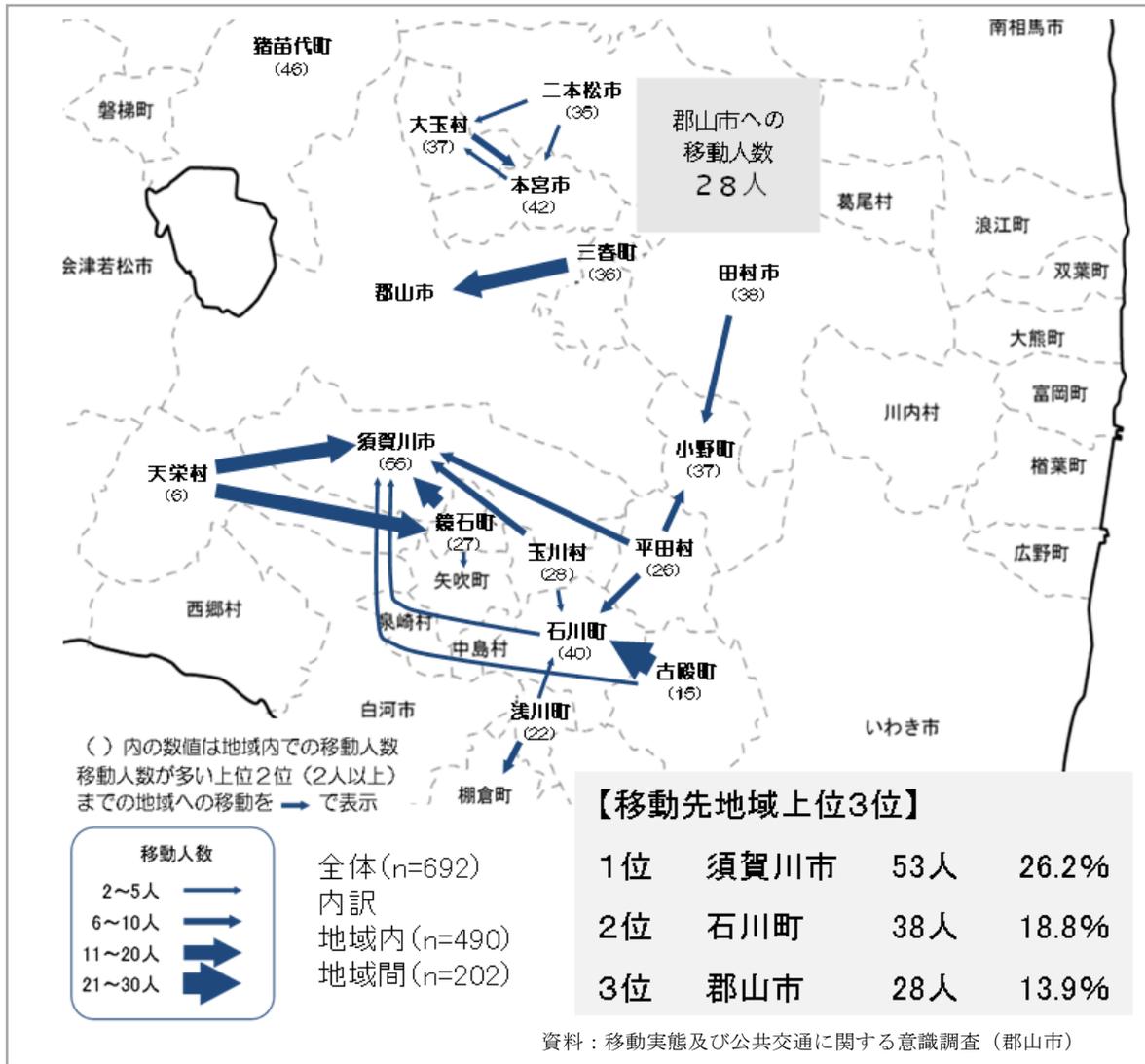
郡山市内における買い物での移動状況をみると、地域内の移動が約 60%であり、自宅付近の商業施設で買い物をしている傾向がみられます。また、地域間の移動は約 40%であり、商業施設が多く立地している旧郡山西部、旧郡山東部、安積町への移動が多くみられます。

また、こおりやま広域圏における買い物での移動状況をみると、日用品等の買い物においては、市町村内の移動が約 70%を占めており、近隣の商業施設で買い物をしている状況にありますが、買回性の高い「セーター・ブラウス」と特別性の高い「家電製品」について、福島県消費購買動向調査（令和元（2019）年度）における郡山市の商圈図をみると、隣接した市町村を中心として、郡山市での購買率が 40%を超える市町村が多数見受けられます。

●郡山市内における買い物の移動状況

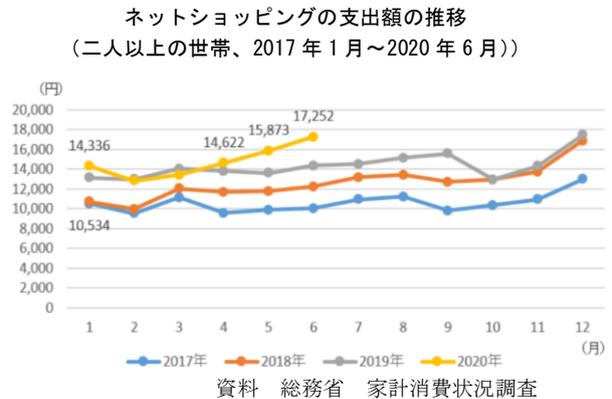
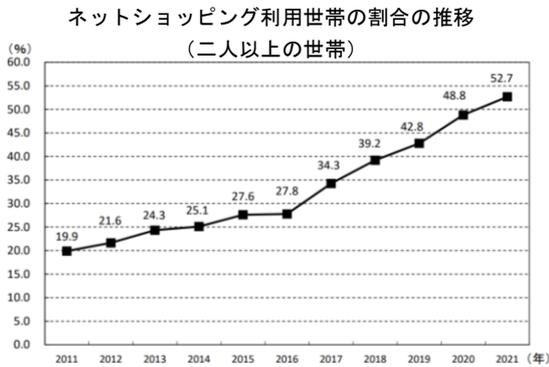


●こおりやま広域圏における買い物の移動状況



【参考】ネットショッピングの利用状況

ネットショッピングの利用世帯の割合は、年々増加傾向にあり、2021年は52.7%となっています。また、ネットショッピングの支出額総額もほぼ毎年増加を続け、2017年1月の10,534円から2020年1月は14,336円となり、36.1%増となっています。

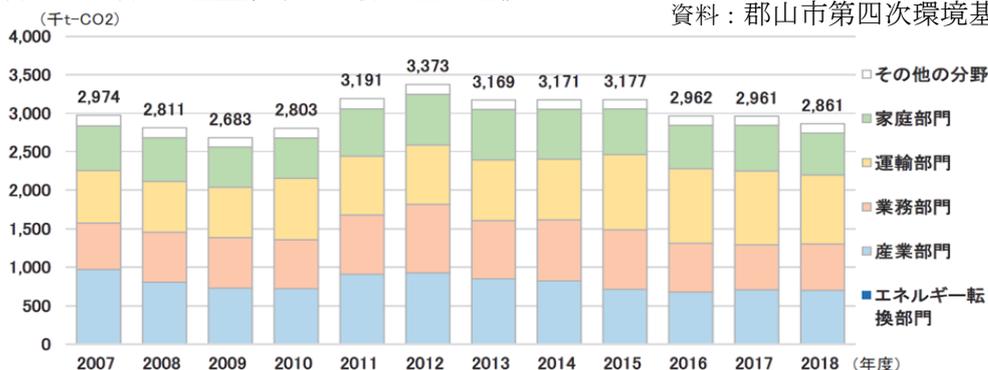


⑤ 環境への影響

地球温暖化につながる温室効果ガスの排出については、CO₂（二酸化炭素）排出量が多く占めているとされ、その中でも、運輸部門の割合は大きいものと考えられます。本市の部門別温室効果ガス排出量の推移をみると、産業部門、業務部門、家庭部門で減少傾向にある一方で、運輸部門は平成 27（2015）年から増加しており、平成 30（2018）年においては、部門別で 1 番の排出量（897 千 t-CO₂）となっています。

●郡山市の部門別温室効果ガス排出量の推移

資料：郡山市第四次環境基本計画

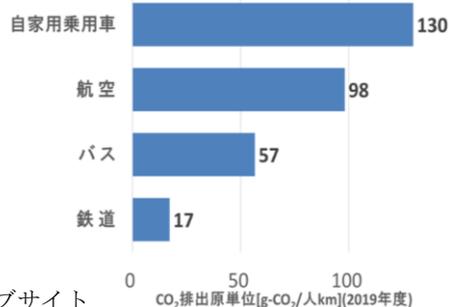


【参考】

●旅客輸送機関別の CO₂ 排出量

1 人を 1km 運ぶ際に排出される二酸化炭素量を輸送機関別に比較すると、自家用乗用車は、バスの約 2.5 倍、鉄道の約 7 倍となっており、自動車への依存は環境に大きな負荷をかけることとなります。

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)



資料：国土交通省ウェブサイト

《課題》 (3) 移動特性

- ◆過度な自動車利用は、公共交通の利用者を減少させ、交通事業者の収支悪化を招くとともに、温室効果ガス排出量の増加につながることから、環境負荷の少ない公共交通や自転車・徒歩への転換を促す方策が必要になります。
- ◆郡山市内における移動について、駅中心のアクセス性のほか、近隣の地区間の移動や地区内の移動など、移動ニーズに応じた公共交通網の充実が必要です。
- ◆近隣市町村から郡山市へのアクセス性など移動ニーズに応じた広域的な公共交通網の充実が必要となります。
- ◆一方では、パソコンやスマートフォンの普及が進み、様々な商品をインターネットにより購入する方々も年々増加するなど、サービスの利便性は向上していますが、配送する車両も増加するため、効率的・効果的な運送サービスが必要になります。